

2014年度 地域プロジェクト発表祭



日時:2014年12月13日(土) 10:00~17:10

会場:多摩大学 多摩キャンパス 101教室&201教室

主催:多摩大学地域活性化マネジメントセンター

2014年度地域プロジェクト発表祭 プログラム

101教室		201教室		
9:30	受付開始			
第1部(95分)				
司会:中庭		司会:奥山		
10:00	開会の挨拶 教室移動			
10:20	葉加瀬太郎チャリティーコンサート報告	樋口裕一ゼミ	志企業の会社案内プロジェクト 梅澤ゼミ、石川ゼミ、奥山ゼミ、酒井ゼミ、志賀ゼミ、中村そのこゼミ、久恒ゼミ	
10:35	世代を繋げるみんなの食卓プロジェクト -健康なまちづくりを目指して	梅澤佳子ゼミ		
10:50	コミュニティカフェ「タマラボ」を通じた 諏訪名店街での仮説検証プロジェクト	浜田健史プロジェクトゼミ	地域中小企業社史製作プロジェクト 奥山雅之ゼミ	
11:05	多摩市立諏訪小学校 放課後子ども教室「英語であそぼう！」	石川晴子ゼミ	インターゼミ 多摩学班 (荻野、奥山)	
11:20	多摩市立諏訪小学校と地域の連携づくり	梅澤佳子ゼミ	明星大学ボランティアグループとの連合による 地域防犯活動 中村そのこゼミ	
教室移動(10分)				
招待発表:午前の部(15分)				
司会:梅澤				
11:45	感じよう農業 ～喜び、苦労、人～	諏訪小学校5年生の皆様 (関聡司 先生)		
お昼休み(60分)				
第2部(75分)				
司会:石川		司会:杉田		
13:00	メディア実践論	木村知義プロジェクトゼミ	東京ヴェルディ応援プロジェクト 久恒啓一ゼミ	
13:15	地域密着型店舗のラジオCM制作と関連プロモーション	中村そのこゼミ	インターゼミ 地域(震災・環境・エネルギー)班 インターゼミ(出原、木村、中澤、中庭、諸橋)	
13:30	ハイブリッドメディア研究会	学長室	日の出産業振興プロジェクト 奥山雅之ゼミ	
13:45	緑を通じて世代を繋ぐ多摩グリーンライフプロジェクト	梅澤佳子ゼミ	多摩手みやげプロジェクト 久恒啓一ゼミ	
14:00	京王移動販売プロジェクト	酒井麻衣子ゼミ	横浜FCイベント 江頭満正プロジェクトゼミ	
教室移動(10分)				
招待発表:午後の部(40分)				
司会:梅澤・諸橋				
14:25～ 14:45	障がい者の就労支援とネットワーク	東京経済大学 経営学部 山本聡ゼミ の皆様		
	世代間交流を長期的に行うシステム			
14:45～ 15:05	「天下の台所で「くだおれ」 ～様々な食べ物が食べられる街、大阪～」	帝塚山大学 経済学部の皆 様		
	地域と連携して大学生が取り組むネットバトロール	帝塚山大学 経営学部の皆 様		
休憩(15分)				
第3部(110分)				
司会:酒井		司会:梅澤		
15:20	スポーツゴミ拾いプロジェクト	久恒啓一ゼミ	公共政策研究会の取組 公共政策研究会	
15:35	近隣交流七輪プロジェクト2014	梅澤佳子ゼミ	インターゼミ アジアダイナミズム班 インターゼミ (金、小林、バートル)	
15:50	インターゼミ サービス・エンターテインメント班	インターゼミ (市岡、久保田、安田)	企業インタビューによるシティプロモーション提案 ー町田市編ー 中庭光彦ゼミ	
16:05	永山駅前まちびらき40周年プロジェクト	松本祐一(多摩大総研)	多摩・キャンパスフェスタ 梅澤佳子ゼミ	
16:20	地域ビジネス構想プロジェクト	奥山雅之ゼミ	BOPビジネス入門講座 見山謙一郎ゼミ	
16:35	サンリオピューロランドの課題解決プロジェクト	松本祐一プロジェクトゼミ	多摩大学の非公認マスコットキャラクターをつくろう 梅澤佳子ゼミ	
教室移動(5分)				
16:55	来賓ご挨拶			
17:05	閉会の挨拶			

志企業の会社案内プロジェクト

ホームゼミ合同

(久恒ゼミ、中村ゼミ、志賀ゼミ、梅澤ゼミ、
酒井ゼミ、石川ゼミ、奥山ゼミ)

1. はじめに

多摩大学、多摩地域の優良企業紹介ポータルサイトを運営する弘久社では、多摩信用金庫の協力のもと、地域の企業・団体（以下、「企業」という。）と学生との相互交流を図り、人材育成と地域活性化に資することを目的として、多摩地域の「元気な企業」を対象として、学生の手で会社案内を作成する標記のプロジェクトを実施することとした。

本プロジェクトは、学生が企業に訪問し経営者などに対してインタビューを実施し、主に学生向けの会社案内を作成するものであり、2013年度から開始し、今年度が2年目となる。

以下、その具体的内容を記す。

2. 本プロジェクトのプロセス

本プロジェクトは、学生自身が企業にアポイントを取ることから始まる。学生は数人がひとつのグループとなり、決められた日時に企業に訪問し、経営者および若手社員等にインタビューすることなどにより、会社案内のコンテンツを収集する。その後、収集したコンテンツをもとに学生目線で作成した企業案内（約8ページ）を作成する。

3. インタビュー内容

1-1 経営者へのインタビュー

(1) 会社概要

- | | | |
|-------|-------|------|
| ①会社名 | ④資本金 | ⑦事業所 |
| ②創立 | ⑤売上高 | |
| ③事業内容 | ⑥従業員数 | |

(2) 経営者の志、社長の経営に対する考え方

(3) 業界の現状と今後の見通し

(4) 現在の企業内容

- | | |
|-----------------|-----------|
| ①企業の強み | ③新人教育について |
| ②目指すもの（ビジョン・使命） | ④顧客について |

(5) 事業内容、事業形態（業態）の変遷

- | | |
|-------------|--------------|
| ①連携関係 | ④助成金等公的資金の活用 |
| ②新規技術開発について | ⑤その他 |
| ③海外展開について | |

(6) 就職活動している学生に一言（求める人材像、学生へのメッセージ）

1-2 先輩（若手社員）へのインタビュー

(1) プロフィール

- | | |
|---------|----------------|
| ①入社何年目か | ②どのような仕事をしているか |
|---------|----------------|

- (2) 入社したきっかけ、経緯
- (3) 職場の魅力
- (4) 今後どのように成長していきたいか
- (5) 学生へのメッセージ

4. 作成した会社案内の公表

インタビューで取材した内容は、御社の会社案内として編集し、多摩大学のHP や弘久社運営のサイトである「TAMA エクセレントカンパニー（多摩志企業）<http://tama-exc.com/>」などで公表する予定である。

5. 2014 年度参加企業・団体

2014 年度は、多摩地域の企業・団体を中心に 16 社の参加があり、前年度より参加企業は 3 社増加した。

<2014 年度参加企業（順不同）>

三幸自動車株式会社

ニュータウン交通株式会社

株式会社イーグル建創

セルジェ株式会社

株式会社アースリンク

株式会社ミルクティー

京西テクノス株式会社

株式会社日本電力サービス

株式会社キャリア・マム

特定非営利活動法人多摩草むらの会

メタプラス株式会社

株式会社ティーアール

株式会社 TRUST

アップグレード株式会社

株式会社ウィズチャイルド

有限会社須黒食品

6. 学生としてのメリット・効果

参加学生は、7つのホームゼミに所属する2～4年生の約70名となっている。学生にとっては、このプロジェクトへの参加を通じて、主に次の3点のメリット・効果が大きいプロジェクトとなった。また、企業と学生とのマッチングにも効果がみられる。

- (1) 社会人基礎力を身につける。
- (2) 生きた経営学を学ぶ。
- (3) 多摩地域に所在する企業・団体を知る。

中小企業の社史製作プロジェクト～Ｙ社の 90 年史の製作～

奥山ゼミ（地域産業・中小企業研究室）
（3 年 北川、加藤、菅野、鈴木、吉岡）

1. 当プロジェクトについて

会社が自らの歴史を記録し、本の形としたものであり、「企業が出す自分史」ともいえるものである。村橋（2002）によれば、日本国内で毎年発行される社史は概ね 200 点ほど、今まで社史を発行した企業は 5500 社ほどになると言われている¹。

企業が社史を製作することの意義は以下の 3 つに集約される。

- （1）過去を学び、未来に活かすため
- （2）顧客や提携先などに会社を P R するとともに、企業の歴史を従業員間で共有し、組織の一体感を高めるため
- （3）経営資料の保存、整理、管理のきっかけとするため

社史は「生きた経営の教科書」といわれるように、1 つの企業の歴史に触れ、その時々を経営判断や苦境を乗り越えた経験を知ることは、経営学的な知識習得だけでなく、学生がビジネスに携わるときの現実感を体得することにも大変有効である。また、1 つの社史をまとめるプロセスを経験することで、情報の収集力や編集力を養う貴重な機会となる。

一方、地域の中小企業にとっても、自社がどのような歴史を持つ企業で、それを踏まえてどのような経営目標を携えて夢を実現していくかを社内外に示すことは、営業活動だけでなく、従業員のモチベーションや人材確保の面でも有効である。しかし、大企業と異なり、多くの地域の中小企業には、社史をまとめる人的・時間的余裕もノウハウも十分でないのが現状である。

そこで、奥山ゼミでは、ホームゼミのプログラムの一環として地域の中小企業の社史を製作するプロジェクトを実施した。具体的には、ホームゼミメンバーで企業に訪問し、経営者からのインタビューや提供された資料を基に社史を学生の手で編纂する。企業からの費用負担は求めない。

2. 大学生が中小企業の社史を製作することの意義

大学生が中小企業の社史を作成することの意義は、次の 3 点に集約される。

- （1）企業に訪問し、社長などに会って、話を聞くことにより、生きた経営学と社会人基礎力を実地で身に付けることができること
- （2）社会に出る前に、どのような企業に就職したいかを考えるきっかけになる

¹村橋勝子『社史の研究』ダイヤモンド社、2002 年。

こと

- (3) 企業の歴史を追うことで、過去の経済環境の変化を理解することができる
こと

3. 今年度の取組

まず、社史製作の第一号の企業として、東京に本社のある総合電源メーカーY社にご協力いただいている。Y社の概要は以下のとおりである。

- ・本社：東京都大田区
- ・工場：神奈川県海老名市
- ・業務内容：交流電源（自動電圧調整器・周波数変換器）、直流安定化電源、バッテリー充放電試験装置、高圧電源、無停電電源装置、各種電源機器の開発・製造・販売
- ・創立：1925（大正14）年
- ・会社設立：1958（昭和33）年
- ・資本金：30,000,000円

奥山ゼミでは、Y社の歴史を創業期（1925年～1957年）、成長期（1958年～1977年）、危機・再生期（1978年～1989年）および変革期（1990年～現在）に区分して、それぞれの時代でY社はどのような経済的・経営的環境におかれていたのか、また、それらの環境に適応しようとしたY社の経営行動は何であったのか等を調査・研究した。

研究方法としては、過去の会社案内、財務諸表、会社発表資料など収取・整理した。さらに、資料収集・整理だけでなく、経営者、管理者層、工場現場の従業員へのインタビューを実施するとともに、オーラルヒストリーとして企業OB2名からも直接話を聞き取った。今年度は、さらなる資料整理（売り上げ、利益の推移など）を経て、社史を執筆した。

社史は2014（平成26）年度内に完成する予定である。

4. 中小企業の社史製作を通じて学んだこと

- (1) 企業は、取り巻く経済環境によって大きく影響され、環境変化への対応を常に迫られていること
- (2) 中小企業でも、適切なマーケットのセグメントに加え、自社の強みを磨いていくことで大企業とも伍して戦うことができるということ
- (3) 企業は、経営者のリーダーシップによって変革するということ

多摩学

「多摩学」とは

「多摩学」とは、多摩の来歴を探り、多摩の現代について考え、多摩という視点から未来を構想する学問です。多摩川と相模川に挟まれた地域を広義の「多摩」として、その地歴を探り、この地域の持つ意味と可能性を多角的・学際的に探求していきます。

多摩大学では、講義科目として「多摩学」を展開しているほか、社会人、大学院生、両学部生が参加するインターゼミ（「社会工学研究会」）でも多摩学研究を推進しています。



多摩大鳥瞰図絵

インターゼミ「多摩学」研究 2013 年度までの成果

2009 年度：多摩ニュータウンの再生

2010 年度：多摩川、民話、市民農園、千人同心、絹・織物

2011 年度：中里介山・白洲次郎にみる新中間層の成り上がりと多摩地域の関係

2012 年度：浦賀を中心に見た江戸幕府の対外貿易と海防

2013 年度：三多摩壮士はなぜ生まれたのか～自由民権運動にみる多摩の DNA～



インターゼミの様子

インターゼミ「多摩学」研究 2014 年度の取組

テーマ：2040 年多摩の展望～50 年に一度の交通革命をこえて～

「相模原市」を事例として、圏央道やリニア中央新幹線の開通などがもたらす「交通革命」を活かした、多摩地域の近未来像を描いていきます。論文執筆に向け、文献を研究するだけでなく、フィールドワークを積極的に実施しています。



相模市中心部を歩く



最新の物流システムを見学



相模原商工会議所との意見交換会



リニア見学センターでスピードを体感



日光へ。八王子同心が東照宮の火之番として活躍。朝鮮通信使など多摩がグローバルとつながる場所。

2040年 多摩の展望 ～50年に一度の交通革命をこえて～

インターゼミ2014多摩学班



本研究の目的・背景

- ▶ 背景（多摩地域をめぐる交通網の変革：50年に一度の交通革命）

- ▶ 圏央道
- ▶ リニア中央新幹線
- ▶ 横田飛行場の軍民共用化（未定）

- ▶ 目的（目指すべきゴール）

- ▶ 「相模原市」を事例として、「交通革命」を活かした多摩地域の近未来像を描く。
(近未来=2040年と設定)

リサーチクエスト

▶ 圏央道、リニア中央新幹線などの交通革命

- ▶ 相模原を含めた多摩地域は、どのように変化するのだろうか。
- ▶ どのような影響（メリット、デメリット）をもたらすのだろうか。
- ▶ 地域の発展に最大限活かすためには、どのような取組が必要であろうか。

論文構成

- ▶ はじめに（背景と目的）
- ▶ 第1章 多摩地域、相模原の概要と特性
 - ▶ 第1節 多摩地域の概要と特性
 - ▶ 第2節 相模原の概要と特性
- ▶ 第2章 交通革命
 - ▶ 第1節 圏央道 概要と影響
 - ▶ 第2節 リニア中央新幹線 概要と影響
 - ▶ 第3節 横田基地 概要と影響
 - ▶ 第4節 その他 小田急線延伸 相模線複線化 新幹線新駅
 - ▶ 第5節 小括 多摩、相模原の未来図
- ▶ 第3章 分析の視点
- ▶ 第4章 クリエイティビティ
 - ▶ 第1節 相模原市産業の特徴
 - ▶ 第2節 地域中小企業と国際ベンチャーとの連携
 - ▶ 第3節 物流網を活用した中小製造業の国際競争力強化
- ▶ 第5章 リバリティ
 - ▶ 第1節 交通革命を活用した高齢者の生きがいづくり
 - ▶ 第2節 高齢化を支える交通安全システム
- ▶ 第6章 レゾリエンス
 - ▶ 第1節 備蓄拠点・防災拠点としての役割
- ▶ 第7章 まとめ

第1章 多摩地域、相模原の概要と特性 ～多摩学班の先行研究より～

- ▶ 2009年：多摩ニュータウン（外部から受け入れる）
- ▶ 2010年：絹の道（開国後海外から文物・知識が集まる）
千人同心（半農半士 蘭学 江川太郎左衛門〈伊豆〉）
- ▶ 2011年：白洲次郎と中里介山（世界と多摩の仲介役）
- ▶ 2012年：横浜の開港（海外の人の居留地）
- ▶ 2013年：豪農（千葉卓三郎〈仙台湾〉海外からの文献天賦人權思想）

製造・物流の集約拠点
他地域から多摩に人が集まる
グローバル化の先進地域としての性格

多摩の本質、多摩の歴史の世界との接点

寺島実郎「脳力のレッスン148～多摩の地域史が世界史に繋がる瞬間」岩波書店『世界』2014年8月号より

- ▶ 不満やわがだまりが生む何苦楚魂が多摩に強く存在
Ex 江戸から明治の転換で薩長から厳しい状況に置かれたが

その後の自由民権運動

- ▶ 多摩の本質（周辺性）（境界性）が歴史を動かすエネルギー源が眠っている
- ▶ 地域と国際交流が繋がる
Ex 朝鮮通信使の日光へ行くときに千人同心の同行
蝦夷地の海防及び開拓（対ロシアの対策）



相模原市の概要

- ▶ 人口 72万2375人
横浜市・川崎市に次いで
県内第3位(2014年5月1日現在)
- ▶ 2010年4月政令指定都市
全国で20都市目
- ▶ 緑区・中央区・南区の3区
- ▶ 大和市・厚木市・町田市・
八王子市・上野原市などが隣接

相模原の歩み

江戸後期～明治期 上溝、相原地域の商人
生糸や絹織物で栄える(八王子～町田の間)

大正 露店がたくさん並ぶ町並み
(農家が多くそれに関連したもの)

戦前 軍都としての相模原
(軍都市計画 住宅地や工場が増える)

戦後 ベットタウン化 商業集積が進む



第2章 第1節 交通革命 圏央道の全面開通

- ▶ 2014年6月28日、高
尾山に～愛川相模原
に間開通で、中央高
速と東名高速が接続
- ▶ 2015年度には、つく
ば市まで接続
- ▶ 2020年に全面開通



圏央道全面開通の効果

- ▶ 渋滞緩和
 - ▶ 都心への車の流入を抑え、流れがスムーズに
- ▶ 物流の信頼性向上
 - ▶ 物流ネットワークが強化
- ▶ 地域経済と雇用の創出
 - ▶ 相模原を含め、沿道地域への企業立地促進

(具体的効果)
八王子～横浜港 約124分→53分
相模原からアジア輸出の主要港
ある新潟港まで高速道路で接続
花王、ヤマト運輸など物流セン
ターの立地が増加

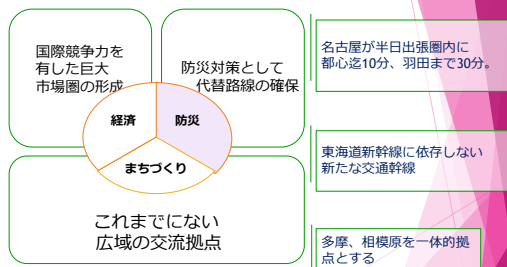


第2章 第2節 交通革命 リニア中央新幹線

- ▶ 2027年開通予定(品川～名古屋)
- ▶ 最高時速505キロ
- ▶ 東京、神奈川、山梨、静岡、長野、岐阜、愛知の7都県を通る
- ▶ 全長286キロ(トンネルが8割)
- ▶ 相模原(橋本駅)に「神奈川県駅(仮称)」設置



リニア中央新幹線の効果



第2章 第3節 交通革命 横田飛行場の軍民共用化

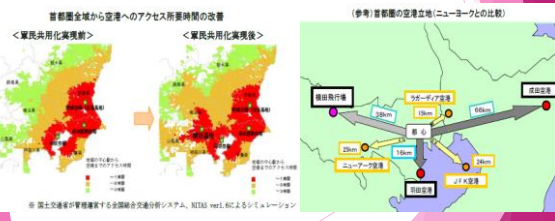
- ▶ 極東における米軍の主要基地
- ▶ 多摩地域(福生市など)に位置する
- ▶ 3350mの滑走路をもつ
(羽田: 3000mと2500mそれぞれ2本)
- ▶ 米軍関係者用の民間旅客機の運行も



(出典: <http://ameblo.jp/cp21/entry-11324779759.html>)

横田飛行場の軍民共用化の効果

- ▶ 共用化実現により、多摩地域の多くの地域から空港までのアクセスが1時間以内に
- ▶ 首都圏西部地域の経済の活性化・交流拡大等の効果が期待される



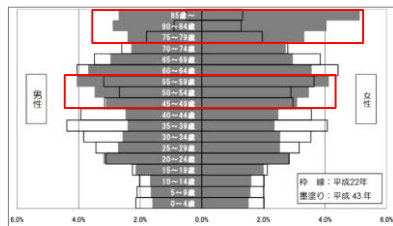
第2章 第3節 小田急線延伸 相模線複線化 新幹線新駅



第3章 分析の視点

【「多摩地域」がかかえる問題点】

出典：多摩市 人口想定報告書（平成22年）



第3章 分析の視点

【Ex.】相模原商工会議所「都市産業研究会」による提言書2014】

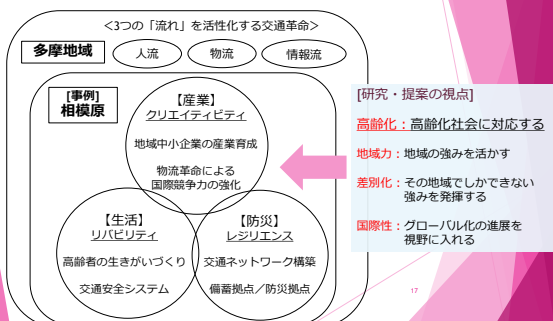
「継続して住み続けられる街」となるにはどのような視点が必要か・・・

5つの視点	キーワード
1 人口減少と高齢化社会への対応	・少子高齢化対策の対応 ・コンパクトシティ化
2 経済と生活利便性の調和	・誰もがいきいきと活動できる ・地域を活性化
3 広域交流拠点都市	・生活利便だけでなく交流や流入を生む 交通環境の方向性
4 環境サステナビリティ 歴史・文化・風土	・環境負荷が少ない ・自然資源を生活・歴史・文化・産業に 融和した街づくり
5 防災支援都市	・平坦な市街地、揺れにくい地盤のメリットを活かす ・産業と生活が調和した街づくり

- ▶ 都市産業研究会の提言書からの以下のキーワードを抽出。
「産業」・「生活」・「防災」

第3章 分析の視点

【「多摩地域」の街づくりの方向性（仮説）】



分析の視点に基づく具体的な提案

- ▶ 3分野5つの提案
- ▶ 提案① 地域中小企業と国際ベンチャーとの連携
- ▶ 提案② 物流網を活用した中小製造業の国際競争力強化
- ▶ 提案③ 交通革命を活用した高齢者の生きがいづくり
- ▶ 提案④ 高齢者の安全にも配慮した交流都市づくり
- ▶ 提案⑤ 備蓄・防災拠点としての役割

明星大学 ボランティアグループと の連合による地域防犯 活動プロデュース

中村そのこゼミナール

•

●1

もくじ

1. ゼミのテーマ
2. 活動紹介
3. 経緯
4. ミッション
5. 評価と反省
6. 今後の展開

•

●2

そのこゼミの研究テーマ

だれよりも高く**アイデア**の電波塔

— **そ**のも**の**らしさを**こ**とぼで—

広告・宣伝・広報

キャンペーン・イベント企画など

「世の中PRできないものはない」

を合言葉に

PRコミュニケーションを追求する

ゼミです！

多摩大学経営情報学部

中村そのこゼミナール

2. 今回の活動について

明星大学と多摩大学でボランティアコラボ

明星大学の団体をそのこゼミがPRする



地域で活躍している学生団体をPR

することで地域の人に知ってもらい

地域を盛り上げる

＜今回連携した団体＞

明星大学 防犯ボランティア団体
「MCAT」

→日野市を中心として防犯の呼びかけ
やパトロールを行っている団体

→地域の安全を守り

防犯意識を高める

● 5

3. 経緯

「平成25年度学生による地域貢献活動団体助成
金」

活動報告プレゼンテーション大会に両団体が出
場

公益財団法人 東京市町村自治調査会の方から提案

大学の団体同士で連携し
地域に貢献することは出来ないだろうか

ボランティアコラボが始まる

● 6

4. 今回のミッション

- ・MCATの地域での知名度を上げるとともに
より魅力的で特徴あるボランティア団体へ
- ・地域の方々の防犯意識を楽しみながら向上させる
- ・そのために文化祭で防犯劇をいっしょに演じる
→防犯クイズ劇というイベントを企画するだけで
はなく、「防犯クイズ劇」というコンテンツを制作する
- ・コンテンツの提供→ 今後長期的にそのコンテンツ
を用いての活動を可能にする

•

●7

なぜ防犯クイズ劇なのか

- ・子供から高齢者までどの年代にも
楽しんでもらえる
- ・クイズに答えることで楽しみながら防犯
意識を高めることができる
- ・参加型イベントで単に防犯を呼びかける
より印象に残る

●8

クイズの形式

ステージ



防犯劇の内容の例①





大道芸団
マアム

多摩大学
S・PR隊

防犯
ボランティア隊
MCAT

三団体による
防犯コラボ寸劇

① 13:00～
② 14:00～
③ 15:00～

ちょっぴり可笑しくタメになる!?

【来場者参加型】 はちやめちや 防犯ショートコント!!

MTボランティアグループ 団体責任者：村上 翔太郎 (12H3-077) 場所：28号館301




我々が出すクイズに正解し 犯防スキル と 商品 を手にするのは誰だ!?

5.評価と反省

- ・明星大学 学園祭にて集客 60人
- ・大学ゼミナールとボランティア団体との連携
という新しい試み
- ・劇のクオリティをあげて、
よりわかりやすい内容へ
- ・開場内の飾り付け、スライドの活用
- ・最後に参加者にアンケートを実施

6. 今後の展望

＜次回のコラボの予定＞

両大学の学園祭

地域でのボランティア・福祉関連イベント

小学校・中学校や老人ホームの訪問

→地域のみなさまに団体を知ってもらい

積極的にPRすることで地域を盛り上げて行きたい

→犯罪に巻き込まれやすい年代の人たちにより防犯

意識を持ってもらい地域の絆を深めたい

● 13

ご協力して頂きありがとうございました

明星大学

公益財団法人 東京市町村自治調査会

関戸公民館

(敬称略・順不同)

● 14

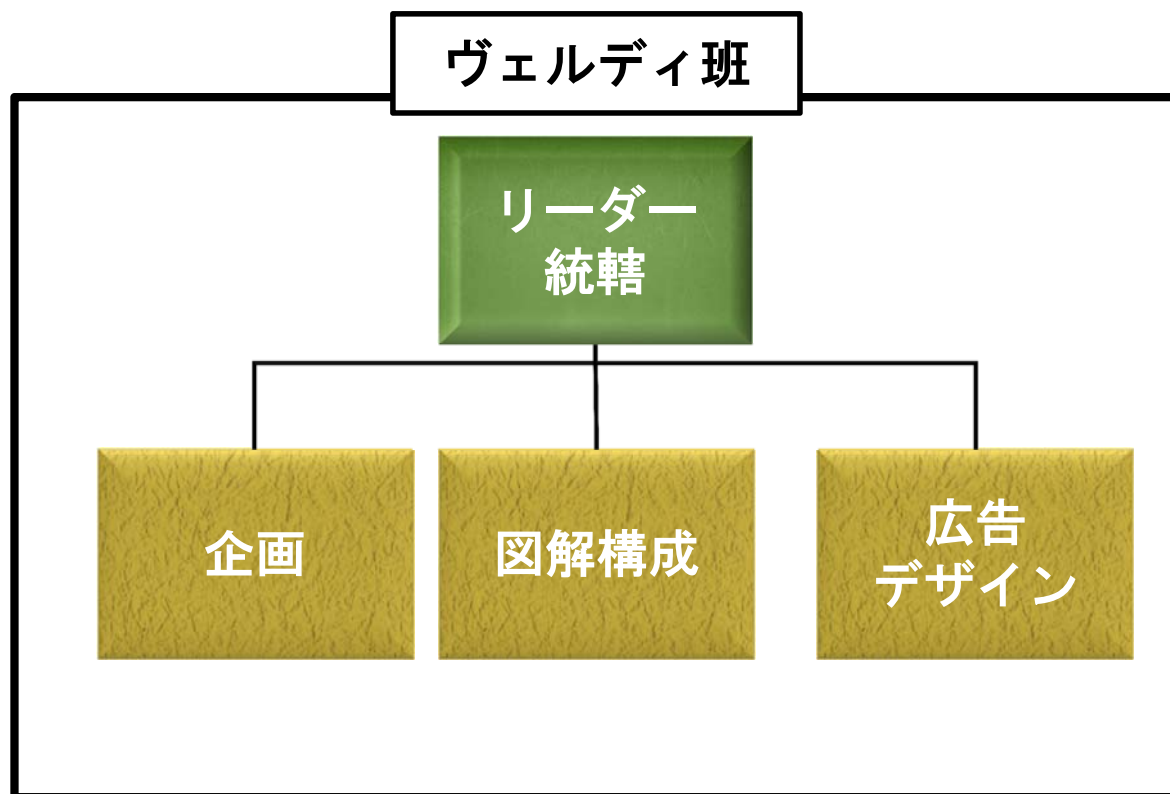
久恒啓一ゼミナール 東京ヴェルディ応援 プロジェクト



目次

- 1、組織体系
- 2、現状
- 3、目的と方針
- 4、活動内容
- 5、協賛内容
- 6、まとめ
- 7、来年度に向けて

1、組織体系

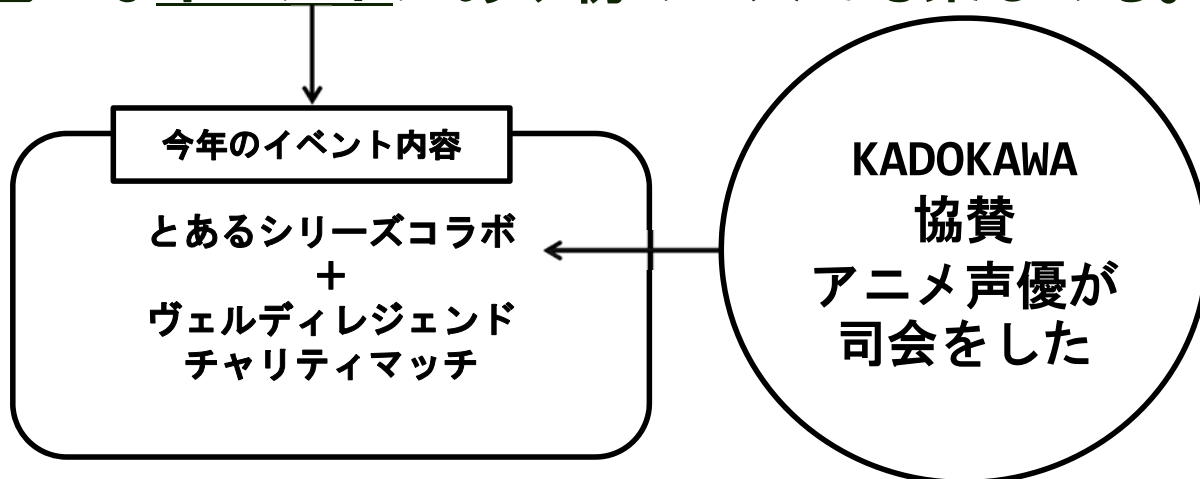


2、現状

- ・ ホームタウンである多摩市のお客さんが少ない。
- ・ ホームタウン感謝試合、サンクスマッチの存在を知らない人が多い。

※多摩サクスマッチとは

- 多摩市の方は観戦無料。
- 観戦費用は多摩市が負担。
- 色々なイベントがあり初めの人でも楽しめる。



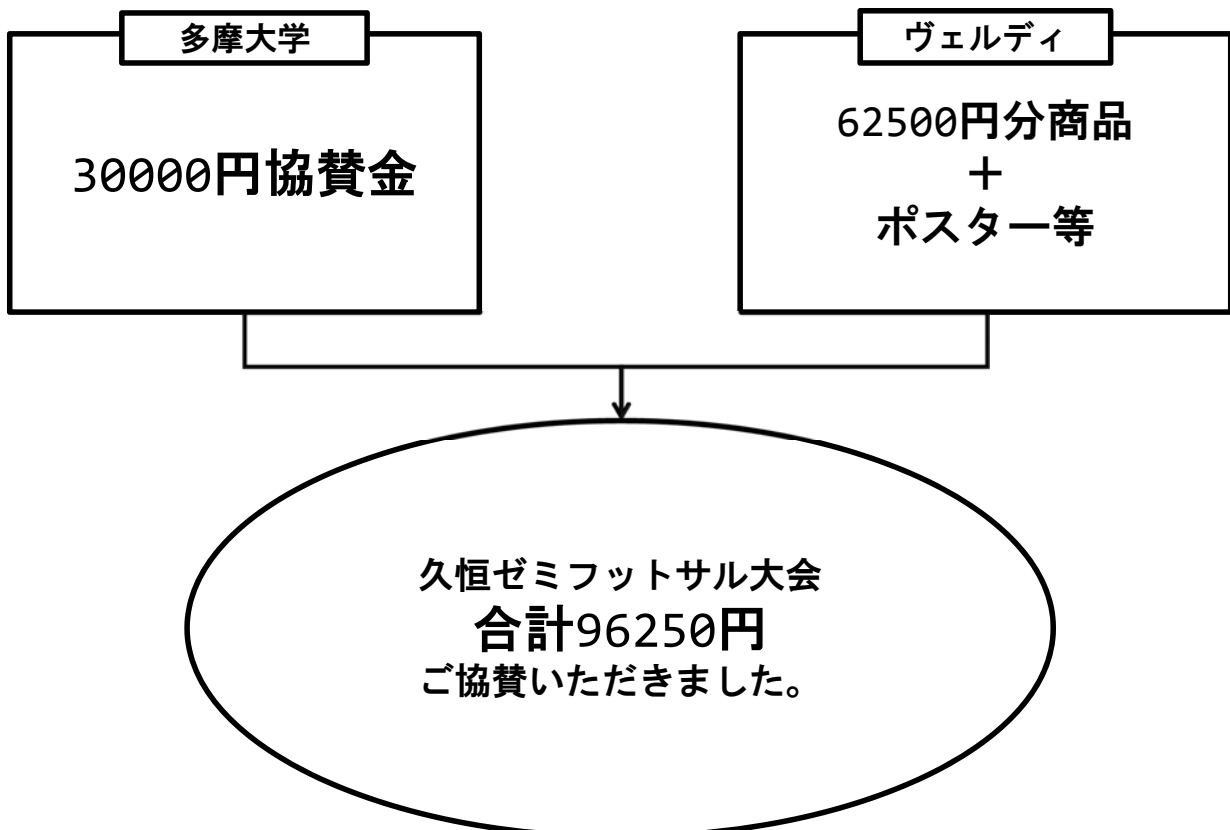
3、目的と方針

サクスマッチをもっと皆が知れば、
お客さんがふえるかもしれない。

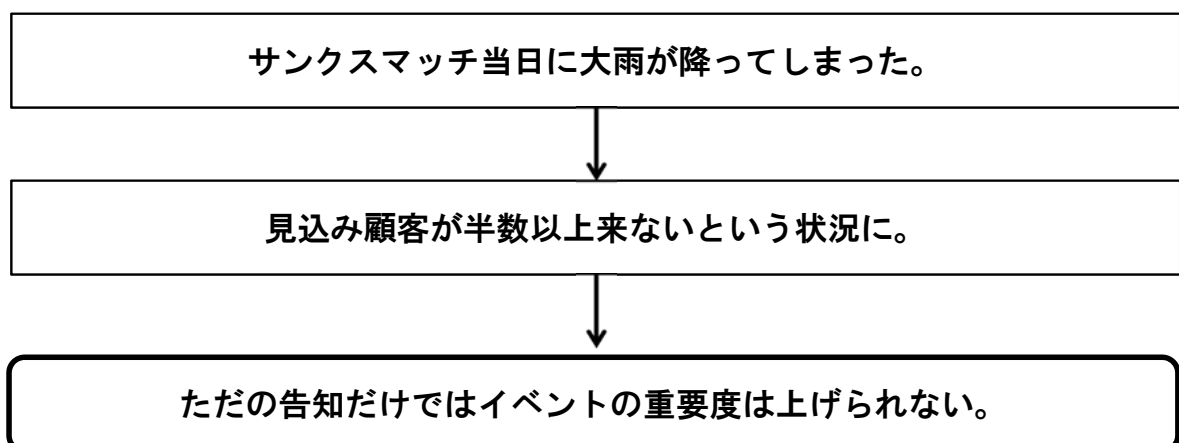
サクスマッチを伝える
イベントを開こう！

フットサル大会
それが

5、協賛内容



6、まとめ



課題

7、来年度に向けて

来年度の活動の二つの柱

イベントの重要度を
上げる

イベントを拡大し、
サクマツチをより広く
知ってもらう

ヴェルディ試合観戦の楽
しさがわかる動画作り

国士舘大学
合同でフットサル大会

ご清聴ありがとうございました



震災3年後から見る水産都市の地域創生

- 人口減少に伴うスマートシュリンクを目指して -



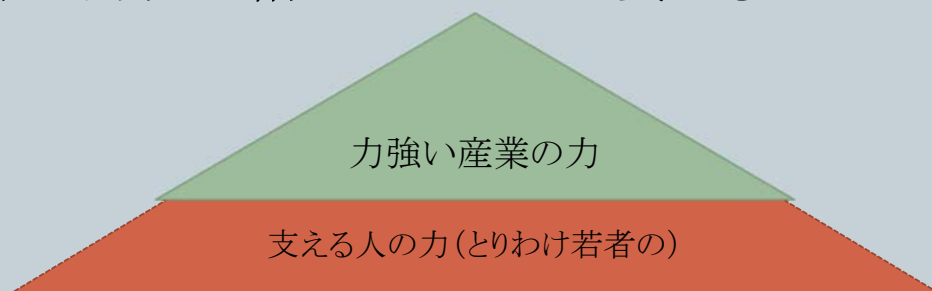
インターゼミ(社会工学会) 地域(震災・環境・エネルギー)班
学生: 村木一美
田邊大輝
山梨裕矢
指導教授: 出原至道、木村知義、中沢弥、中庭光彦、諸橋正幸
アドバイザー: 井上直子、川合紀子

研究目的として



震災3年目の被災地の状況からみて、今後のまちづくりとしてコンパクトシティ&ネットワークの方向性を探る。

水産都市の力強い創生のために必要なものとは・・・?



→これらをどう成長させるのか?



成長のための二つのキーワード:「コネクターハブ」と「ソーシャルイノベーター」

背景と現状①

国土交通省「国土グランドデザイン」時代の潮流と課題 では...?

(1)人口減少、少子化 ……2050年には、現在の居住地域の6割以上の地点で人口が半分以下に減少し、うち2割が無居住化。地域消滅の危機。

(2)高齢化問題 ……世界のどの国も経験したことのない4割の高齢化率へ。高齢社会に対応した国土・地域づくりが急務。

「被災地は少子高齢化による日本の変化がより明らかになった場所であるが、復興にあたってはコンパクトでスマートな産業再生はできていなかった。」

人口流出

地域産業の衰退

高齢化

→ 2011年3月11日 東日本大震災
これらの問題が急激に迫ってきた東北地域

コネクターハブとは？

全国のネットワークと地元のネットワークを結ぶもののこと



- 中小企業庁のコネクターハブ

ソーシャルイノベーターとは？



地域社会の問題解決に活躍する実践者で、水産都市にて何が求められているか、どのような資源があるのかに関して詳しくニーズと資源をつなぐことが出来る人。

ソーシャルイノベーターとして活躍している人物として松村豪太さん

なぜコネクターハブに至ったのか？



(背景) 石巻: マルカ高橋水産のヒアリングを通して・・・
→ 水産加工などの復興・再生・本域等

「一様な復興支援はダメ 重点ポイントに集中してくれ」と社長の意見を受け、調査を進める中でNHKスペシャルに出会いました。そこで、これはコネクターハブだ！！！！ということを見つけた

怒り→なぜ？

調べる→NHKスペシャル

これらから分かったこと・・・

コネクターハブの存在

コネクターハブになれた要素



本論

コネクターハブは意としてなるものではなく、結果としてついてくるものである。

マルカ事例

- 1、安定供給(ブランド力)
- 2、仕入れルート(調達力)→地元に限らず仕入先を広げた
- 3、あくまでも中央市場に限定

結果として、コネクターハブになっていた。

さらにこの企業は大企業ではない。規模が大きいからコネクターハブになるわけではない！

二つ目の復興重要要素：人の力



○気仙沼市 Aさん

気仙沼の復興商店街 南町紫市場の代表の村上力男さんに話を伺うことが出来た。気仙沼は、若者同士の絆が強い町である。震災後、村上さんは、「気仙沼を顧客が集まる町にしたい」という思いがあり、町の数名とまちづくりの勉強、神戸の被災地を訪れ、当時の状況を学び、東京工業大学の教授とまちづくりを考えるなど、今もまちづくりに取り組んでいる。人を呼ぶ街にするためにどうすればいいかを試行錯誤し、提案書を自治体に提出している。こどもアートミュージアムを建設し、子供同士の関係から絆を深めている。さらに、行政・市民の間で、協議会をつくり、定期的に議論している。

ソーシャルイノベーターとの出会い



(例として...)

松村豪太さん、ISHINOMAKI2.0など

気仙沼 村上さん

もソーシャルイノベーターだった！！！！

ソーシャルイノベーターになりうる要素



- 地域に根差した活動
- 志し・生き方



まさにこれがソーシャルイノベーターである！！！！

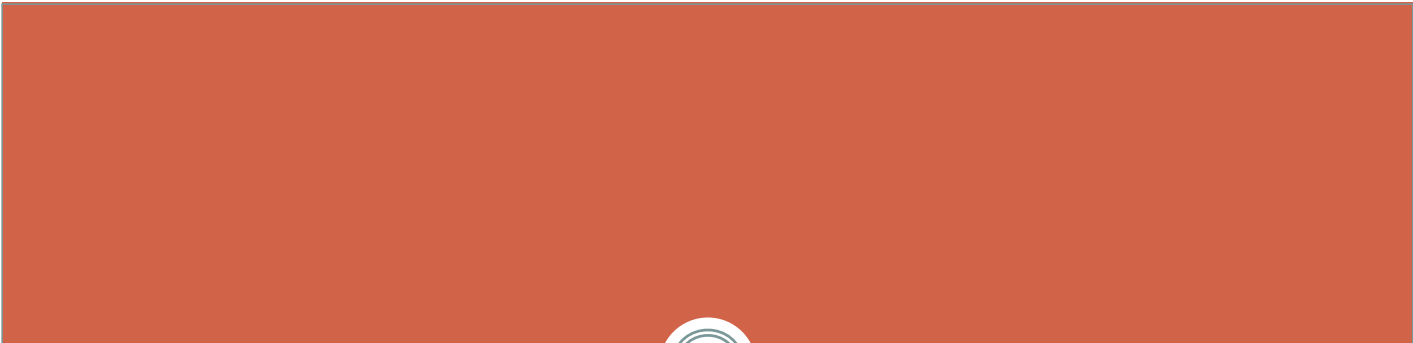
まとめ



- これからの地域の姿をどう描くのか
→ 今後のまちづくりのあり方とは

コネクターハブを動かすソーシャルイノベーターの存在が
コンパクトシティ&ネットワークにつくりあげることが出来る

現在の復興は集積の経済で大規模復興だが、コンパクトシティ&ネットワークは、水産都市のちから強い創生を生み出す一つの重要な手がかりである。(内発的なものがネットワークで結んでいくことが大事)



ご静聴ありがとうございました。



日の出産業振興プロジェクト

奥山ゼミ（地域産業・中小企業研究室）
（2年、岩泉、村木、伊藤、大貫、坂本、
外山、宮崎、山浦）

1. 日の出町の概要

東京都西多摩郡日の出町は、青梅市とあきる野市の間にある人口 16,961 人、7,261 世帯の町である。

現在、日の出町が抱えている問題の一つとして高齢化問題が挙げられる。東京市町村自治調査会の調べでは 2005 年は 20% の高齢化率が、2025 年には 35% になると予測されています。人口もすでに減少し始めている。このままでは、高齢化問題、人口減少問題が進むことで、町の活力が失われるのではないかと心配される。



2. 本プロジェクトの目的

上記課題解決に向けて、観光振興を起点として、日の出町を知ってもらい、気に入ったら「常連客」に、もっと気に入ったら「セカンドハウス」を、将来的には「定住」をしてもらうことがプロジェクトの目的である。

しかし、すでに観光地として名高い周辺地域の状況はイメージコンセプトが

しっかりとしている。一方、日の出町はそれが確立していないため他との差別化ができず地域資源が埋もれてしまっているのが現状である。

日の出町にも強みはある。日の出町では東京 23 区から近く、かつ手付かずの自然と文化が溶け合った観光資源が多数存在するのである。こうした強みを活かし、他地域と差別化した観光振興を行うために発足したのが本プロジェクトである。

3. 本プロジェクトの立ち上げと活動

2013 年 9 月、日の出町の地域の方、商工会、観光ガイドの会、多摩大学奥山ゼミ等により、産学官連携のプロジェクトを発足しました。

私たちは 1 年間以上の毎月の会議を重ねて日の出町がどういう差別化要素が考えられるか検討を重ねた。そこで、観光振興における日の出町のコンセプトを、「都心から 60 分という近さにあるのに、自然や文化を通じて心の充電ができる場所」とし、このコンセプトを基に、日の出町の差別化要素を検討した。

ターゲットの絞込みとして、同じく都心から近いという利点がある高尾山が得意としている家族連れや高齢者ではなく、将来の定住を見据えて都内ビジネスパーソンをターゲットとすることとした。

次に、「日の出」の色でもあり、名産のトマトの色でもある赤色を基軸にしたイメージ戦略を打ち出した。

最後に、土日ではなく日曜午後から月曜早朝、平日をターゲット時間とすることとした。

4. エクストリームツアー商品の開発

上記差別化を実現する手段として、新たな観光商品開発に着手した。そのターゲットは、ビジネスパーソン向けの土日でない時間を使った観光商品である。

まずは、ニーズの仮説として、「ビジネスパーソンは、手軽に非日常を体験できる場所を探しているのではないか」、また、「ビジネスパーソンは、家でじっと過ごしていると、日曜日午後から憂鬱になる。それはビジネスパーソンにとっていやなことであり、解消したいと考えている」というものである。

そういった仮説に基づき開発したのが「日の出エクストリーム出社ツアー」である。このツアーは単なる観光ツアーではなく、ツアーを通じて知力、体力、精神力すべてを高め、月曜日からのハードワークに備える、「新たな日曜日午後からの過ごし方」をする独自のツアーである。

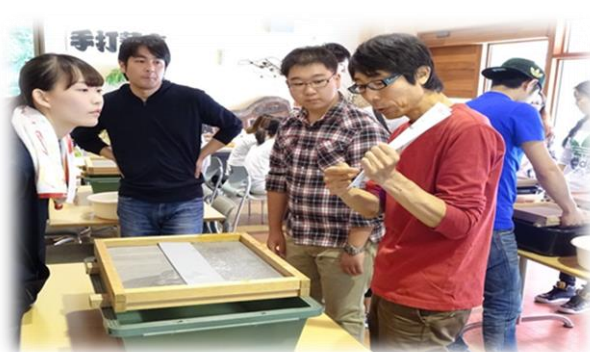
具体的には、日曜日午後から出発し、紙すき体験や忍者体験、登山、地場の食材を使った夕食、頂上付近の東雲山荘に宿泊、月曜日早朝に日の出山頂から見える日の出を鑑賞、つるつる温泉、出社という行程のツアーである。

紙すき体験は LED ライト、スマホケース、ブックカバーなどを作ることでストレス緩和と集中力向上につながる。日の出町は紙の材料である楮と三桠が採れる。一方、忍者体験は忍者のノウハウを現代のビジネスシーンに活かす体験をすることで知力向上につながるプログラムとした。日の出町では北条氏が治めていた時代に、忍者が活躍していたといわれている。

本年9月の学生によるモニターツアーを実施し、11月にはビジネスパーソンを公募してモニターツアーを実施した。なお、こうした取組は、企画が東京都の「地域資源発掘型実証プログラム事業」に採択されたため、こうした事業の協力によって実施されている。

5. 今後の取組

将来の方向性としては、様々なビジネスシーンに対応した観光商品を開発し、平日の集客も図ろうと考えている。例として、「ロン・ヤス会談」が行われた日の出山荘の活用を挙げることができる。また、2020年のオリンピック時の外国客向けのエクスカージョン商品の開発も視野に入れている。



9月に実施したモニターツアーの様子

多摩手みやげプロジェクト

多摩大学久恒ゼミナール

3年4人 2年4人

目次

- 多摩手みやげPJ概要
- 活動内容
- 参加企業・団体
- 商品について
- オープンキャンパスでの活動
- 今後の活動

概要

多摩市



開発の目的

市内で製造、生産された
有名な特産物・名産物が少ない



多摩市ならではの土産を企画・販売することで・・・



観光復帰・地域復興を目指す

概要

多摩市内企業懇談会に参加



多摩市内企業懇談会とは？

市内企業、団体、大学、市が
一緒に多摩市の地域復興を進めるため
地域経済活性化、観光施策など
意見交換をする場

概要

多摩市内企業懇談会での意見交換の結果



若手のプロジェクトチームで
お土産を検討してみてはどうか？



久恒ゼミ生の活動

商品の考察など
課題を提出



Facebookの活用
&
情報共有



多摩市をはじめとする
お土産に関する知識



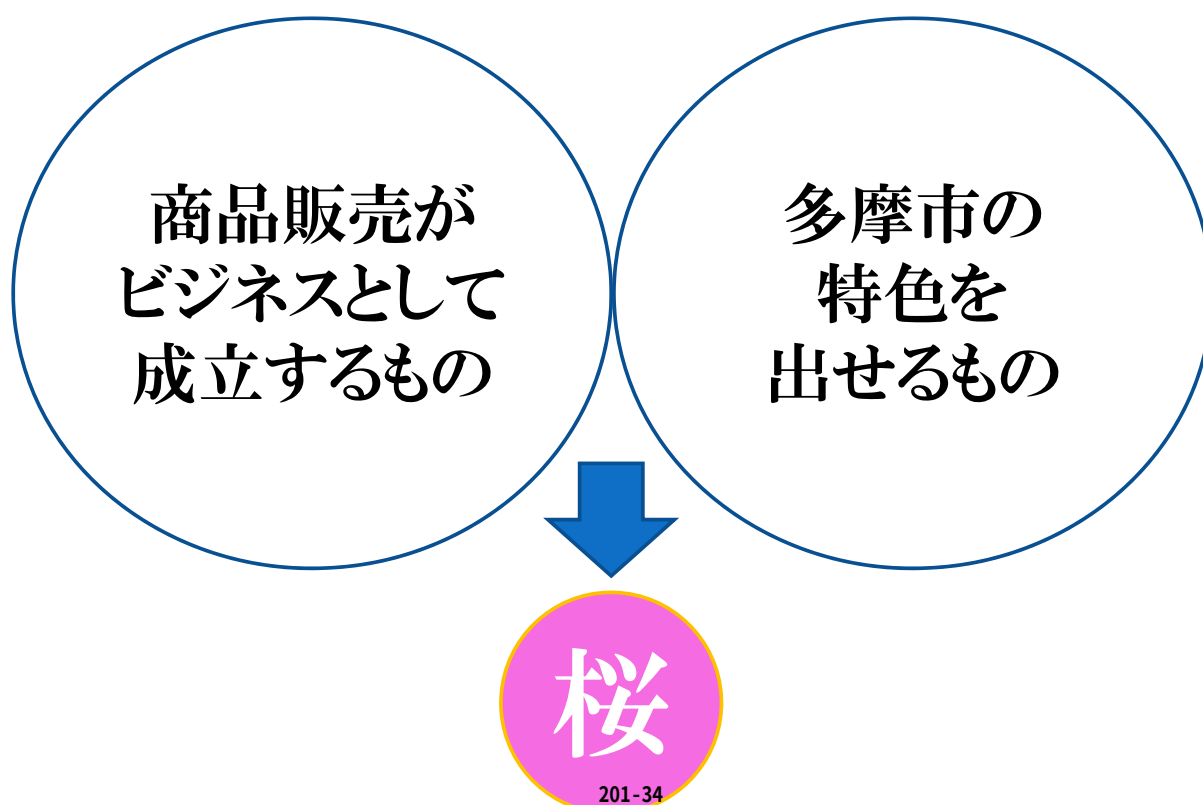
毎月1~2回
の会議

多摩手土産プロジェクト会議へ

一覧

多摩市役所 	京王電鉄 	ベネッセ コーポレーション 
サンリオ 	ポンテ 	多摩商工 会議所 
多摩信用金庫 	多摩大学 	多摩センター地区 連絡協議会 

商品コンセプト



なぜ「桜」なのか

- ヤマザクラは多摩市の「市の花」
- 乞田川・桜通り・宝野公園など桜の名所が多い
- 聖蹟桜ヶ丘の地名の由来など、歴史的背景を商品ストーリーとして語る



多摩市＝桜



永山さくら通り

2014/4/4

具体的な商品案

- ・サクラスク、桜ロールケーキ、多摩カステラ、かりんとう、せんべいなど
- ・多摩市産の原材料を使いたい！
- ・桜の形もしくは桜をイメージできるもの

試作品を

東京多摩調理製菓専門学校様に依頼



商品完成

「桜ポルボロン」完成！

- 平成25年4月7日「桜ポルボロン」販売開始



ポルボロンとは

- **スペイン菓子**

ほろっと崩れる独特の食感がある。

溶けないうちに「ポルボロン、ポルボロン、ポルボロン」と3回唱えると**幸せ**が訪れるという言い伝えがある。



オープンキャンパスでの活動

多摩大学に興味がある学生や多摩市の地域の人々に
桜ポルポロンを知ってもらうため試食会を開催



今後の活動

多摩地域の人たちを大学に呼ぼう！

T-STUDIO25

大学25周年を記念して
5番目の新棟(E棟)として
建設された
1階にラウンジとセブンイレブ
ンがオープン
2階はセミナールームを設置



図書館

一般の人でも利用できて
図書、新聞、雑誌、AV資料
の館内閲覧が可能



この二つの施設を利用して集客し
多摩大学全体を盛り上げる



何をすべきか？

ポスター製作

T-STUDIO25と図書館の施設紹介を
ポスターで作り、付近の多摩地域住民に告知



内容

T-STUDIO25の利用時間や
セブンイレブンの営業時間案内
図書館の施設利用案内と注意
営業時間など・・・

ご清聴ありがとうございました



横浜FCイベント実施による 顧客価値補完策

横浜FC イベント EXゼミ

活動内容



5月 スタジアム現地調査

6月 スタジアムイベント価値の定義

7月 イベント企画考案・プレゼン

9月 イベント準備

10月 イベント実施

11月以降 イベント評価

2014年はイベント日程が早かった為、HIV教育支援活動を追加実施中

活動目的



サッカー消費者の顧客価値

コンテンツ価値

空間的価値

試合の勝敗
選手のPLAY

応援参加
会場の雰囲気

担保不可能

担保可能

担保可能な「空間的価値」を
最大化するためにイベント実施

顧客価値分析

CRMのRFM分析から

直近性
Recency

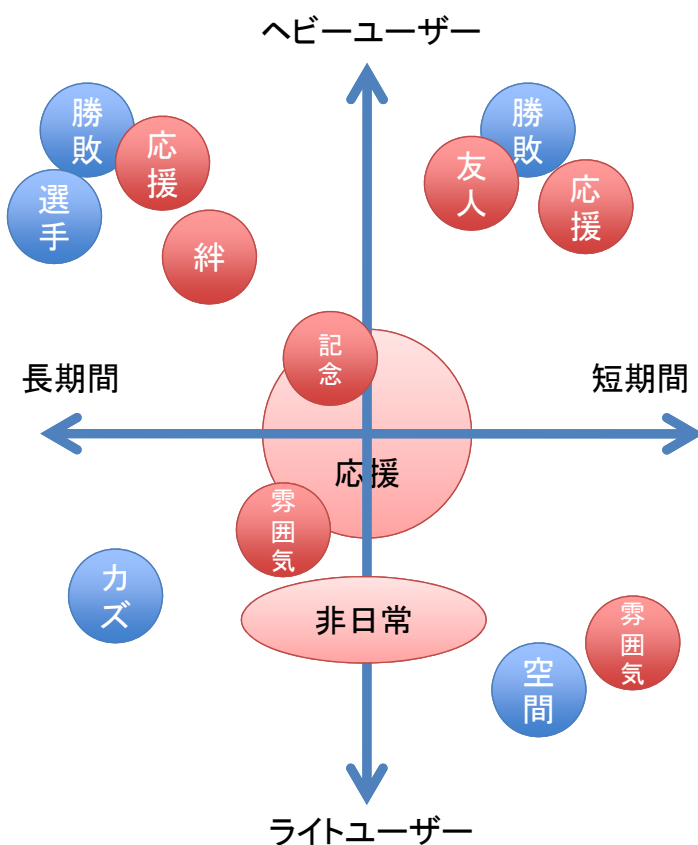
頻繁性
Frequency

富裕性
Monetary

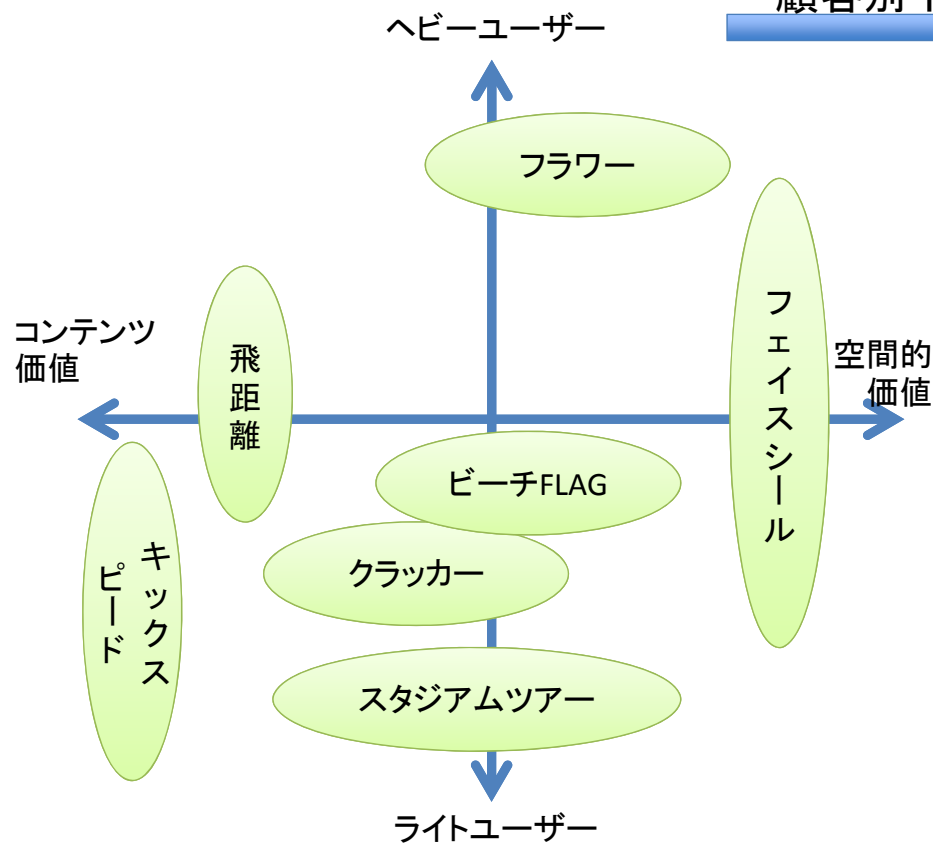
来場頻度

顧客歴

2軸のマトリックスに
マッピング分析



顧客別イベント計画



フェイスシール



実施内容

毎年恒例となったフェイスシール。
今年はOBの方の協力のもと実施。

補完する顧客価値

手軽にサッカー観戦のムードを演出をすることができる。
多くのサポーターがすることで、統一感を出すことができる。

対象者

ヘビ ユーザー
幅広い世代の方に参加してもらえた。

参加人数 500人

キックスピード



実施内容

小学生を対象に実施。
自分のスピードが書かれた
オリジナル記録書をプレゼント。

補完する顧客価値

キックオフ前の空き時間を楽しんでもらう事。子供達にサッカーを楽しんでもらう。

対象者

ライトユーザー
複数回参加してくれる子が大勢見られた。

参加人数 100人

ビーチFLAG



実施内容

ビーチフラッグの容量で行い
スタッフの笛の合図でチャレン
ジャーとキーパーがダッシュし、
ゴールを狙うイベント。

補完する顧客価値

普段とは異なった方式での「サッ
カー」を体験することにより、いつも
とは違った「サッカー」の楽しさが味
わえる。

対象者

ヘビーユーザー
限られた時間だったが多くの方に
参加してもらえた。

参加人数 30～40人

フラワーアレンジメント



実施内容

横浜FCカラーを用いた生花を参加者が自分で作成。自分だけのオリジナルの花束を作ることができる。

補完する顧客価値

来場した女性や子供にサッカーに、さらに興味を持って貰うキッカケを作る。

対象者

ライトユーザー向け。
女性、子供に好評。
実際は男性も参加していた。

参加人数

70人

くらくらクラッカー



実施内容

クラッカーにチョコペンで横浜FCに対する思いを参加者に描いてもらう。

補完する顧客価値

同じものを持つことによってサポーターの士気や統一感が出せる。

対象者

ライトユーザー
幅広い世代の方に参加してもらえ、おいしく食べてくれた。

参加人数

140人

コーディネートコンテスト



実施内容

サングラス、メガネなどこちらが用意した仮装グッズを身につけてもらい写真を撮影し、参加者にプレゼント。

補完する顧客価値

撮った写真を参加者にあげる事で形に残る来場記念になる。

対象者

ライトユーザー

写真枚数に限りがあったが楽しんでもらえた。

参加人数

90人

飛距離コンテスト



実施内容

ピッチサイドからピッチに向かってボールを蹴りその飛距離を競う。

補完する顧客価値

普段関わる事が出来ない横浜FCのコーチ達と一緒にイベント行うことでよりいっそう横浜FCとサポーターの方々が親密になり、より身近な存在になっていく点。

対象者

ヘビー

時間、人数共に限りがあったが楽しんでもらえた。

参加人数 10人

学生ツアー



実施内容

サッカー観戦の経験がない人or少ない人に観戦を経験してもらう。
ロッカールームやグラウンドの近くなど、普通ではいけない特別なツアーを提供した。

補完する顧客価値

サッカー観戦の興味関心を持って貰い、今後の試合観戦回数を増やして貰う。

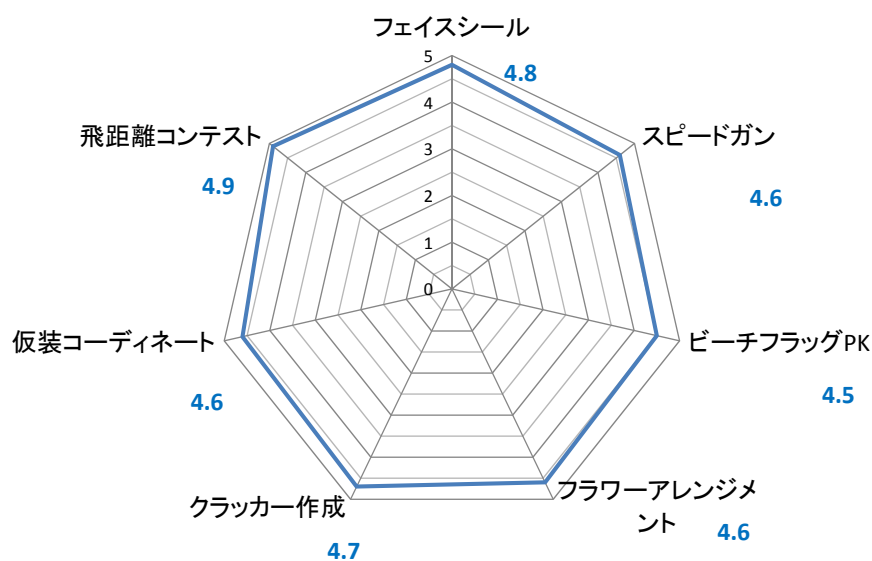
対象者 大学生、専門学生
ライトユーザー

貴重な体験を提供出来て、参加者の方にも好評だった。

参加人数

4人

利用者評価



回答者 40名
男性19名 女性21名

解説文

利用者評価は全体的に4ポイント以上と高評価であった。

特に飛距離コンテストは人気があり、お客さんに喜んでもらえた。アンケートのコメントでは、良かった点では子供が楽しめた・スタッフが優しかった、

悪かった点では声を出したほうが良い(活が無い)、

改善点では学生ツアーの集合時間・場所の連絡を早くしたほうが良いという意見が多かった。



イベント参加者のイベントに関するネット(SNSなど)への発信数を増やす。



イベントへの興味、関心を持つ人が増える

ユーザーが増え、担保可能な「空間的価値」が最大化することができる。

多摩大学公共政策研究会の取組

多摩大学 公共政策研究会

(代表：金子健太、副代表：八木野貴峰)

1. 公共政策研究会とは

公共政策研究会は、多摩大学における公務員（国家公務員、国税専門官、都道府県職員、市町村職員、警察官、消防士など）を目指す学生のためのコミュニティである。

公務員になるためには公務員試験を合格する必要がある、試験合格に向けて多大な学習が必要になる。その学習プロセスにおいては、独学で行うものも多いが、苦しく、孤独になりがちとなる。多摩大学では、公務員をめざす学生は在籍していたが、これらの学生たちが相互に励ましあい、情報交換するコミュニティはなかった。

また、多摩大学は専門学校などの立地する中心駅から離れて立地しており、公務員受験のための専門学校との「ダブルスクール」は困難な状況にあり、通信教育か独学を主流とせざるを得ないという事情もあった。

そこで、こうした学生が楽しく学習できるためのコミュニティを 2014 年 4 月に立ち上げた。

2. 公共政策研究会の活動

現在、当研究会は、月 2 回の頻度で勉強会を開催している。このほか、公務員として活躍している先輩方の話を聞くための実地見学（2014 年度は多摩市役所見学）を実施した。このほか、今年度は、（公社）学術・文化・産業ネットワーク多摩が主催する「政策スクール」に学生 2 名が参加し、多摩地域の行政職員とのグループワークの中で政策形成プロセスを学習した。

現在、1 年生から 3 年生までの合計 15 名の学生が、当研究会に所属している。

3. 今後の取組

まずは、来年度に受験を控える 3 年生の受験対応能力を向上させていくことが必要である。2 年生、1 年生についても、学習項目の定着に向けて繰り返しの学習を重視していく。研究会出身者からできる限り多くの公務員を輩出し、中期的には「公務員受験にも強い多摩大学」を目指していく。



多摩市役所見学の様子

江戸期の日中韓交流

～朝鮮通信使の外交・文化的意味と現代的意義～

2014年12月

インターゼミ2014・アジアダイナミズム班

学部生 3年

三代 ひろな

大学院生

越田 辰宏

三好 瑛太

中村 晶子

杉山 友哉

和泉 昌宏

2年

水口 輝

塚原 啓弘

4年(留学生)

山口 夏実

宮崎 真

王 星星

1. 研究概要 研究目的

- 目的：江戸期の日朝・日中交流史を経験と教訓に現代的意義を確認し未来を構築
- 現在の問題点：歴史認識の問題を巡る日韓・日中の相互不信
- 現在との関係性
 - 多事多難な国際・国内情勢下で江戸期200年以上にわたり平和を構築
 - 日朝関係：国交回復(実利・先例)と「朝鮮通信使」
 - 日中関係：国交なき貿易(政経分離)と中国文化
- 現代的意義
 - 「朝鮮通信使」の外交・文化的意義＝良好な外交関係への可能性と付随する価値
 - ①誠心外交と安全保障の視点 ②文化と民間交流の視点 ③時代認識の深化
- 未来構築の方向性
 - 政府、メディアの役割と責任
 - 市民社会の対話・交流(情報ネットワーク、青年交流等)を通じた相互信頼

1. 研究概要 研究目的

■ アジア班のこれまで

多摩大学留学生獲得戦略、近代日本のアジア像、日中韓の経済、日中韓の人物交流、日中韓の領土問題、飛鳥寺

■ 目的

江戸期の朝鮮通信使の近代史への意味と現代的意義を確認し未来を構築

「江戸期朝鮮使節は被虜人の刷還が主目的だったが、次第に外交的意味だけでなく、文化的意義を大きくしていった。(中略)この良好な日朝関係が、皮肉にも明治維新以降の暗転をもたらす。」(寺島実郎「朝鮮通信使」に見える江戸期の日朝関係——17世紀オランダからの視界」脳力のレッスン、世界(岩波書店、2014年4月号)36頁。)←本研究の基盤

■ 問題意識

朝鮮通信使を通して

①朝鮮使節に象徴される良好な日朝関係が明治期に反転していくのはなぜか(寺島実郎、36頁)

②朝鮮中華主義に埋没していった李王朝と、徳川幕府から明治政府にかけての日本との対比

＝近代化に対応できなかった李王朝、対応できた明治政府の差は何か

朝鮮通信使が近現代に与えた外交的かつ文化的意義は何か

■ 研究方法

「朝鮮通信使」に見える江戸期の日朝関係を基盤に一次資料、二次資料の分析、フィールドワーク

03

2. 目次

1. 研究概要 研究目的

2. 目次

3. 徳川幕府の外交戦略と朝鮮通信使

3-1 朝鮮通信使とは

3-2 日光東照宮と八王子千人同心 ～ 多摩学より ～

3-3 民間交流としての通信使

4. 江戸期の日中関係

4-1 国交なき対中交易

4-2 食文化から見た日中文化交流

5. 朝鮮通信使の軌跡と文化交流 ～ フィールドワークより ～

5-1 朝鮮通信使ゆかりの地

5-2 対馬・広島

5-3 静岡(シンポジウム)

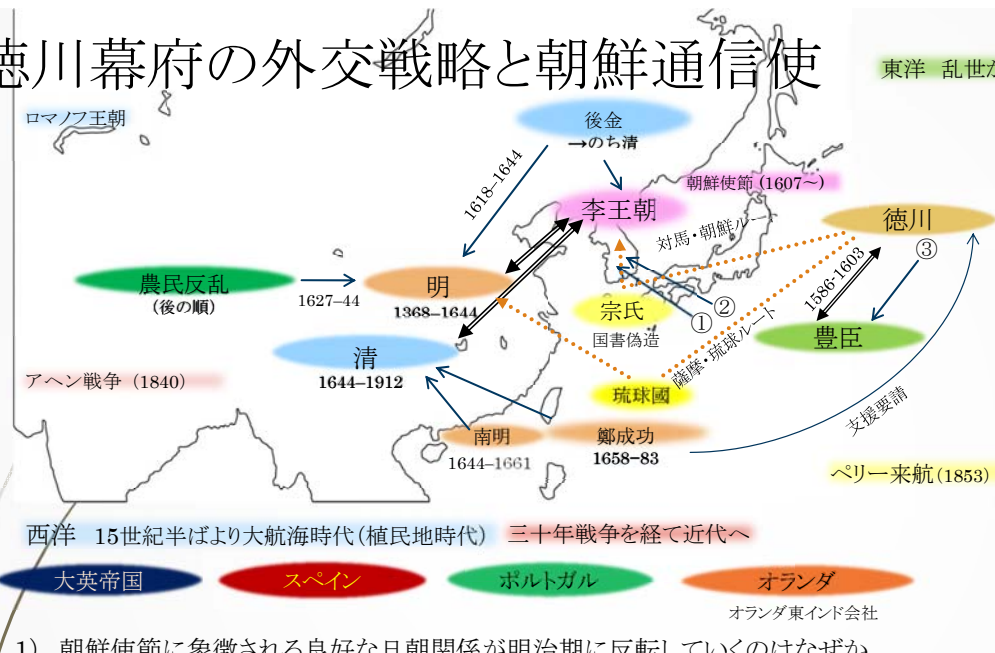
5-4 日光

6. 結論

04

3. 徳川幕府の外交戦略と朝鮮通信使

東洋 乱世から平和の時代



- 1) 朝鮮使節に象徴される良好な日朝関係が明治期に反転していくのはなぜか
- 2) 朝鮮中華主義に埋没していった李王朝と、徳川幕府から明治政府にかけての日本との対比

註) 冊封関係とは、中国の爵号を授かり、中国の皇帝の臣下となること
朝鮮出兵とは、豊臣秀吉による明・李王朝を征服するための戦争 (文禄・慶長の役)
南明とは、明の残党政府、南京で清に抵抗
鄭成功とは、明末期の武将、清に台湾で抵抗
三十年戦争とは、1618年から48年の30年間にわたる新教徒とローマ・カトリック間の戦争

参考:寺島実郎「朝鮮通信使」に見る江戸期の日朝関係——17世紀オランダからの視界」脳力のレッスン、世界(岩波書店、2014年4月号)。

05

3-1 朝鮮通信使とは

- 朝鮮国王から日本に派遣された外交使節団
- 江戸時代に12回派遣
- 呼称:
回答兼刷還使
朝鮮通信使、朝鮮使節



写真:機関紙『조선 통신사 (朝鮮通信使)』

06

朝鮮通信使年表 ～江戸期12回の来日～

朝鮮通信使一覧表

順次	年代(将軍謁見の年)			使命	総人員 (大阪留)	備考
	西暦	日本	朝鮮			
1	1607	慶長12	宣祖40	修好	467	回答兼刷還使
2	1617	元和3	光海君9	大阪平定・日城統合の賀	428	78 同上、伏見行禮
3	1624	寛永元	仁祖2	家光の襲職	300	回答兼刷還使
4	1636	寛永13	仁祖14	泰平の賀	475	
5	1643	寛永20	仁祖21	家綱の誕生	462	
6	1655	明暦元	孝宗6	家綱の襲職	488	103
7	1682	天和2	肅宗8	綱吉の襲職	475	112
8	1711	聖徳元	肅宗37	家宣の襲職	500	129
9	1719	享保4	肅宗45	吉宗の襲職	479	110
10	1748	寛延元	英祖24	家重の襲職	475	83
11	1764	明和元	英祖40	家治の襲職	472	106
12	1811	文化8	純祖11	家齋の襲職	336	対馬行禮

出典：中村栄孝著「日本と朝鮮」

朝鮮通信使の行程



典：金仁謙(きむいんぎょん) 高島淑郎訳『日東壮遊歌 ハングルでつづる朝鮮通信使の記録』

3-2 日光東照宮と八王子千人同心 ～多摩学より～

八王子千人同心とは

- 幕府直属の組織－武士階級でありながら農民という稀有な存在
- 1590年発足、幕末に解体
- 主な役割
 - ・ 日常的な警備、治安維持
 - ・ 緊急時の対応(関ヶ原の戦いでの家康の警護など)
- その他
 - ・ 日光東照宮の火の番(1652年～)
 - ・ 蝦夷地の開拓(1800年～)

09

3-2 日光東照宮と八王子千人同心 ～多摩学より～

朝鮮通信使と八王子千人同心の接点

- 千人同心が日光の火の番を命じられた3年後の明暦元(1655)年、朝鮮通信使が3度目の日光訪問を行っている。その際、千人同心が通信使の警護を担った。
- 朝鮮通信使に対する幕府の対応から、その重要性は一目瞭然である。
- 幕 府 －普段は農民であり年貢も納めていて、緊急時などは警護に当たってくれる、非常に便利な存在。
- 千人同心－普段は農民でありながら、有事の際には武士として扱われる。

☞ 互いの利害が一致した関係性であったと思われる。

10

3-3 民間交流としての通信使外交

- 日朝両国の様々な政治的思惑の中で始まった通信使外交は、民衆の目にどのように映ったのか



「馬上手童図」 英一蝶画



「朝鮮人行列図」 羽川藤永筆 東京国立博物館

朝鮮人行列図 羽川藤永筆 東京国立博物館

- 民衆の目に映った異国の使節
鎖国政策下の日本で、民衆が異国文化に直接に触れることのできる数少ない一大イベント
当時の絵画にも、民衆が通信使一行に接触、見物する場面が数多く活写

11

通信使と民衆の交流から

- 「民間交流と国家外交」

通信使は10回を越える訪日の中で、国家間および民間の交流をもたらし、200年に及ぶ日朝両国の安定的平和に大きく貢献

しかし、通信使外交は決して仲良し外交というわけではなく、両国の複雑な政治情勢が色濃く反映

- 「文化の受容関係に見える民衆の純粋さ」

様々な思惑の中でやって来る異国の使節と、国家の思惑など関係なしの民衆

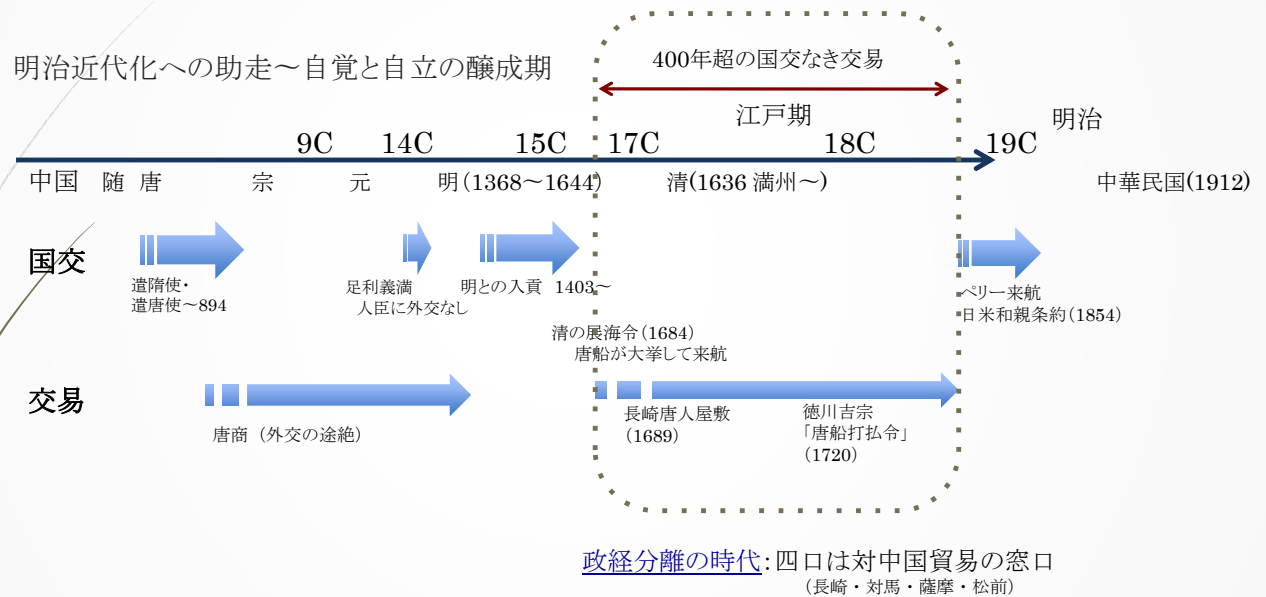
純粋な目線で交流を図り、異国の文化を受容する民衆の姿は、現代の国家間の問題を考える上で重要な意味を持つのではないだろうか

「外交」と聞くと、自身と国を同一視し「自分の国」「相手の国」と考えがちだが、一人の人として相手を知ることの大切さを通信使と民衆の交流が表しているのではないだろうか。

12

4. 江戸期の日中関係

4-1 国境なき対中貿易



出所: 能力のレッスン146「国境なき交易」としての江戸期の日中関係
13

中国文化の流入と浸透

■ 中国文化の流入

「大明会典」・「大清会典」・「六諭衍義」の和訳

儒学者・亡命学者からの情報収集

「唐人風説書」: 唐船の船頭から航海・中国国内事情を聴取し長崎奉行へ提出

(「華夷変態」(1644～1728)として東洋文庫へ収録される)

南京の俗曲の流行や明風の煎茶文化の浸透 (18C)

林羅山が孔子廟を湯島聖堂に (1690)

■ 日中貿易

中国 (明から清へ)

絹・綿布・薬材・砂糖・
鋳物・書籍

輸入

日本

銀 (～1763)
原銅・俵物 (煎海鼠・
干鰯・フカヒレ)

輸出

出所: 能力のレッスン146「国境なき交易」としての江戸期の日中関係

14

4-2 「食」から見た日中文化交流

- 江戸期の日中間の活発な貿易によって双方の食文化にどのような影響があったのか



- 中華料理が、本格的に日本へ

卓袱(しっぽく)料理*、お茶やお酒の製法、蒸し餃子、肉饅頭、ハムの製法

*江戸期「卓袱料理」料理本

『八遷卓燕式記』(1761)、『新撰会席しっぽく趣向帳』(1771)、『普茶料理抄』(1772)

『卓子調烹法』(1778)、『卓子式』(1784)、『新編異国料理』(1861)

- 日本の食材が、中国へ

日本の食材を使った中華料理

中華料理の高級食材である俵物三品(煎海鼠(いりなまこ/いりこ)・乾鮑(干鮑(ほしあわび))・干貝柱(ほしかいばしら))といった俵物の多くが、日本から中国に輸出

15

朝鮮燕行使と朝鮮通信使のちがい

	朝鮮燕行使	朝鮮通信使
派遣回数	500回以上	江戸期 12回
両国の関係	朝貢関係、上下の関係	対等な外交関係
朝鮮国内での地位	高い地位	燕行使よりも低い地位
現地での行動	比較的自由に行動可能	自由な行動不可
文化人との交流	自由な交流が可能	交流は可能だが監視付き

16

5. 朝鮮通信使の軌跡と文化交流 ～フィールドワークより～

5-1 朝鮮通信使ゆかりの地

- 寺院の役割（例）歓待する場所、文化交流の要
- 幕府や藩にとって、朝鮮通信使は多大な財政負担であったが、地域経済には多大な恩恵となり、豊かな文化交流も生まれた
- 現代における朝鮮通信使
 - ゆかりの地を中心とする朝鮮通信使に関する様々な行事の誕生
 - 現在においても日本と朝鮮半島を結ぶ歴史的遺産となっている

17

朝鮮通信使ゆかりの地

釜山	草梁倭館跡(対馬藩の出先機関) 約條制礼碑(釜山博物館内) 豆毛浦(倭館接地場所)
対馬	厳原(府中)、万松院、西山寺(以酌庵)
下関	赤間関、赤間神宮(阿弥陀寺→赤間宮→赤間神宮)、引接寺
上関	御茶屋跡、超泉寺、旧上関藩所
呉	松濤園
福山	福禪寺
瀬戸内	本蓮寺、御茶屋跡
たつの	室津海駅館(養心料理復元、朝鮮人來朝図)
大阪	難波橋、尻無川(唐人滞)、九条島、竹林寺
京都	淀城址、大徳寺、本法寺、相国寺慈照院、本能寺、本國寺跡、唐人雁木、耳塚
近江八幡	朝鮮人街道、本願寺八幡別院、琵琶湖
彦根	宗安寺、大信寺、明性寺、蓮華寺、江国寺
大垣	桃源山全昌寺大誓院、竹島町(朝鮮山車)、十六町(豊年踊り)*大垣市郷土館
名古屋	名古屋東照宮、興正寺、崇覚寺、蓬左文庫
静岡・浜松	清泉寺、善原寺、真珠院、牛欄寺、海岸寺、萬象寺、常円寺、龍潭寺
藤枝	大旅籠「柏屋」
清水	清見寺
三島	長円寺
小田原	大蓮寺、小田原唐人町
藤沢	藤沢宿
東京	皇居(旧江戸城)、東海寺、浅草本願寺
日光	日光東照宮

18

5-2 対馬編(9月4～5日)

■ 朝鮮通信使が唯一12回訪れたところ

- 訪問地
- ①万松院
 - ②韓国展望台
 - ③日露友好の丘
 - ④旧金石城庭園
 - ⑤対馬歴史民族資料館など...



(写真上) 対馬藩主宗家の墓所
日本三大墓所のひとつ、万松院敷地内



(写真右) 韓国展望台から望む日本海
天候がよければ向こう岸に釜山の街並みが見える

19

5-2 広島編(9月6～7日)

■ 朝鮮通信使にとって如何なる場所であったか

■ 訪問地

■ ①松濤園

(写真右上) 松濤園入口

江戸に到着した際に尋ねられた通信使一行が「安芸下蒲刈御馳走一番(蒲刈の御馳走が一番だった)」と言葉を残した

■ ②鞆の浦

通信使が毎回宿泊した場所で福善寺では「日東第一形勝(朝鮮より東で一番美しい所)」と書き残した



20



鞆の浦の福善寺より

21

5-3 朝鮮通信使シンポジウム及び清見寺の見学

■ 静岡フィールドワーク 6/19(木) 参加者: 杉山 友哉 (学部3年) 和泉 昌宏 (大学院生)

- 目的 ①「朝鮮通信使シンポジウム」への参加 ②史跡「清見寺」の見学
- 参加の動機: ①「朝鮮通信使」が数度立ち寄った静岡との関わりを調査
 - ②徳川幕府が取った朝鮮への対外政策とはどのようなものか
 - ③現代までの日韓関係における朝鮮通信使の歴史的意義とは

■ 得られた知見と所感

- ①朝鮮通信使の目的は、江戸幕府将軍の襲職の祝賀
- ②行程期間1年以上、約 400名程で構成
- ③漢詩文に代表される学术交流による、文化交流の発展(例) 清見寺の所蔵遺物
- ④世界史的にも稀な、260年に亘る友好「交隣関係」の歴史的価値

所感: 第一線の研究者の見解を聞くことが出来たと同時に、朝鮮通信使に対する歴史的再評価、(全国ゆかりの地連絡会)活動のNPO法人化、ユネスコ世界記憶遺産、文化遺産への登録を目指す活動を推進中である事を知った。静岡市も徳川ゆかりの地元として後援していくとのこと。

22

ユネスコ記憶遺産登録

- 2016年、日韓共同でユネスコ記憶遺産登録申請をするために、日韓の民間団体が動いている

	日本	韓国
2012/5		ユネスコ遺産登録の公式提案
2012/10		釜山で「朝鮮通信使ユネスコ世界遺産登載のための国際シンポジウム」開催
2014/3	静岡県知事が静岡市内で会談をするために朴槿恵大統領に招待状を送る	
2014/5	朝鮮通信使縁地連絡協議会が開かれ、「朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日本推進部会」が発足	
2014/6		釜山市中区で「朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産登録韓国推進委員会」の発足式が開催
2014/7	長崎県知事・対馬市長がユネスコ登録協力のため、釜山訪問 釜山文化財団を訪ねナム・ソンウ代表と面談し、「日韓の朝鮮通信使ユネスコ世界記録遺産共同登録」の推進に関する緊密な協力を要請	

23

5-4 日光フィールド・ワーク

- 朝鮮通信使が3度(1636年、1643年、1655年)訪問
- 10/5日(日) 多摩学班と合同
- 訪問地：
 - ① 日光東照宮
 - ② 陽明門(朝鮮鐘)
 - ③ 奥社宝塔(三具足)
 - ④ 八王子千人同心記念碑
 - ⑤ 輪王寺三仏道宝物殿
 - ⑥ 大猷院廟
 - ⑦ 朝鮮通信使・今市客館跡碑

(写真右)朝鮮鐘

1643年に朝鮮国王から送られたもの



(写真右)三具足

朝鮮王朝との友好の証

一度焼失し幕府神宝方で複製したもの

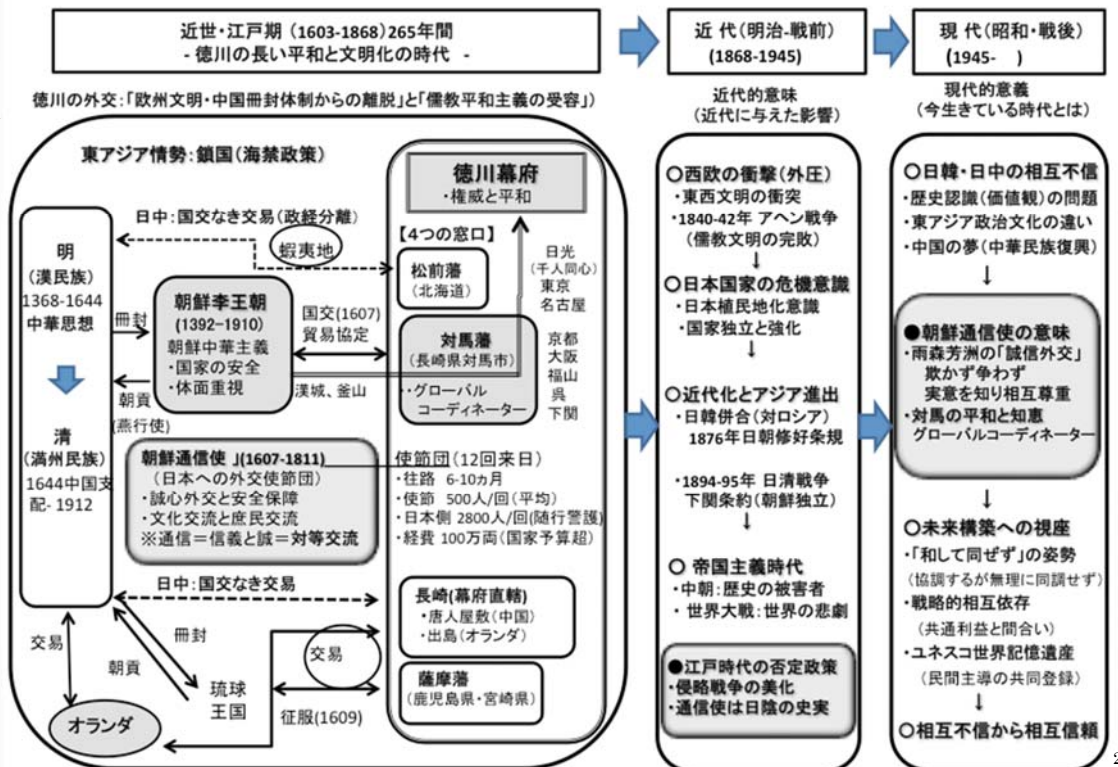


24



6. 結論

2014年アジア班論文題目『江戸期の日中韓交流 ～朝鮮通信使の外交・文化的意味と現代的意義～』の概要





参考文献・研究計画・フィールドワークについて (別添資料あり)

- 参考文献
- 研究論文スケジュール
- フィールドワーク
 - ①朝鮮通信使シンポジウム(静岡市) 6.19
 - ②朝鮮通信使の足跡を追う
 - ③長崎の唐人屋敷 9.3
 - ④対馬・下蒲刈・鞆の浦 9.5～9.7
 - ⑤横浜関内での催し、品川の東海寺、浅草本願寺
 - ⑥日光東照宮 10.5



ご清聴ありがとうございました

2014年アジア班論文題目 『江戸期の日中韓交流 ～朝鮮通信使の外交・文化的意味と現代的意義～』 概要

近世(江戸期) - 徳川の長い平和と文明化の時代
(1603-1868年:265年)

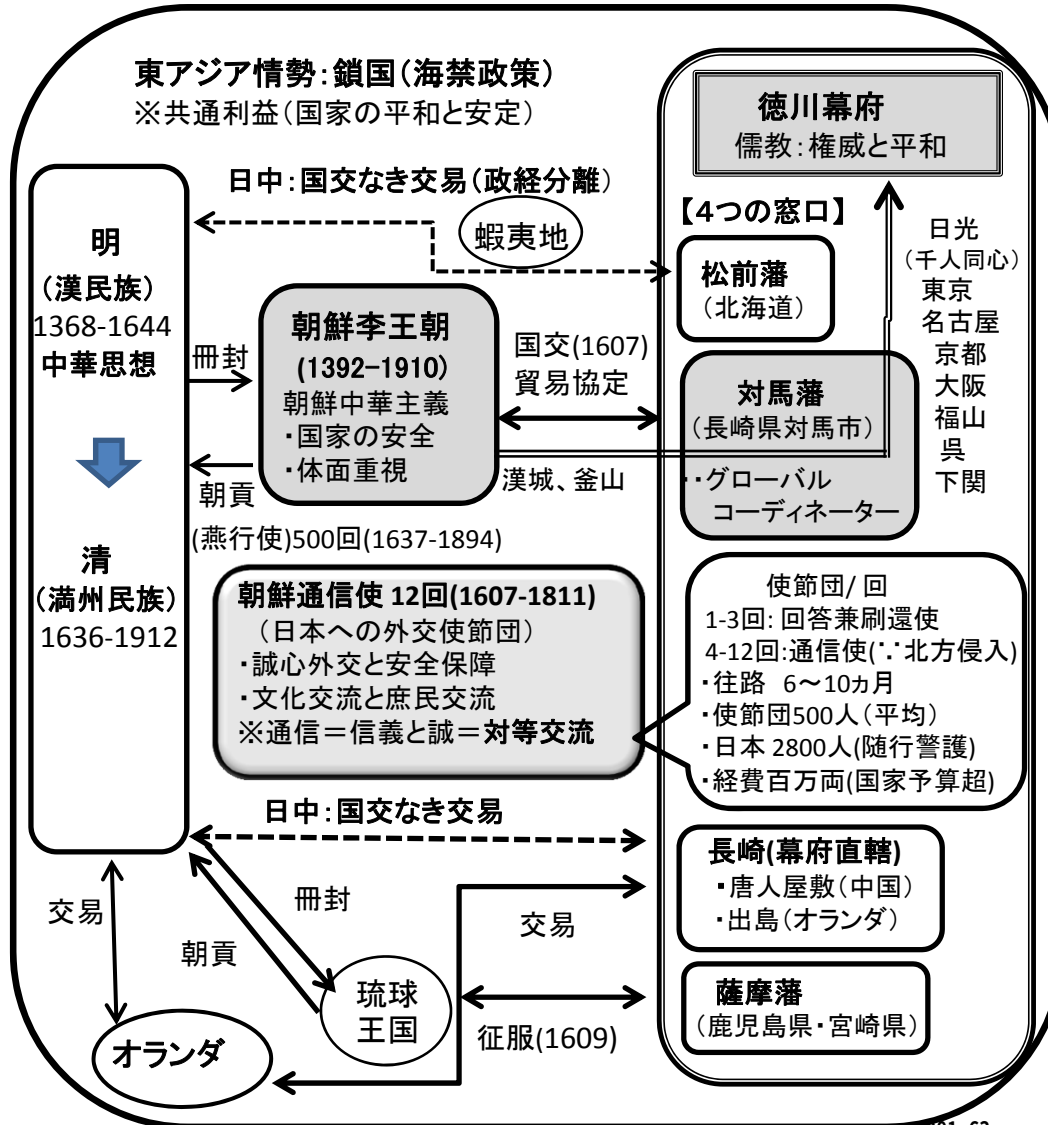
近代(明治期～戦前)
(1868-1945年:77年)

現代(昭和期・戦後)
(1945-2014年:69年)

徳川外交:「欧州文明・中国冊封体制からの離脱」と「儒教平和主義の受容」)

近代の意味
(文明の衝突、日本文化不在)

現代的意義
(理念性より経済重視)



①西欧の衝撃(外圧)
・東西文明の衝突
・1840-42年 アヘン戦争
(儒教文明の完敗)

日本国家の危機意識

・日本植民地化意識
・国家独立と強化策

②西欧の模倣・追従

・近代化とアジア進出
・日韓併合(対ロシア)
1876年日朝修好条規

③日本文化(精神)不在
帝国主義と国家主義

・中朝:歴史の被害者
・日本:自尊・東洋的な見
方の不在

※江戸期の否定政策
・侵略戦争美化(家康より秀吉)
・通信使は「日陰の史実」

①日韓・日中の相互不信
・歴史認識(価値観)の問題
・東アジアの異なる政治文化
・中国の夢(中華民族の復興)

※朝鮮通信使の意義

・雨森芳洲の「誠信外交」
「互いに欺かず争わず」
実意を知り相互尊重
・対馬の平和と知恵
(調整力と実行力)

②「世界人としての日本人」
の自覚(未来への視座)

・「東洋的な見方」「日本らし
さ」「部分知」より「全体知」
・戦略的相互依存・互惠
(和して同ぜずの姿勢)
(共通利益と間合い)
・ユネスコ世界記憶遺産
(民間主導の共同登録へ)

③相互不信から相互信頼

企業インタビューによる 町田市シティープロモーション提案

2014年12月13日
中庭光彦ゼミナール

研究目的・方法

【調査目的】

大学生の視点から、町田市の新たな魅力を発見し、その魅力をかするブランド方法を提案する

【調査方法】

企業インタビューを元にSWOT分析をし、情報の整理を行い、魅力を抽出する。

インタビュー企業

【老舗茶屋A社】

町田の中心部に位置する。老舗茶屋。

【ものづくり企業共同組合B】

先端的企業で作った、共同組合。

【アイス工房C社】

町田北部の丘陵地に位置する。アイス工房。

【地域交流館D】

小野路の歴史・文化・自然に触れ合う拠点施設。

SWOT 分析①

■老舗茶屋A社

【強み】 ・品質&昔ながらのこだわり ・リピーター ・種類が豊富	【機会】 ・試飲 → 全年代 ・お茶教室開催 → 10~20代 ・ネット通販 → 地方在住者 ・お茶漬け作り → 10~20代 ・1つ安い&高い商品作り → 全年代 ・安さを売りにする → 全年代 ・キャンペーン実施 → 全年代
【弱み】 ・広報活動があまり無い ・地味	【脅威】 ・日本茶を商品化するメーカー ・ブランド化されたペットボトル ・若者の思考変化

SWOT 分析②

□ものづくり企業共同組合B

【強み】 ・人の貸し借り ・設備が整っている ・組合内の信頼度 ・資金面の援助 ・地域との交流 ・共同開発間	【弱み】 ・外部との交流がない ・発信力弱み×機会 ・外部との交流がない ・発信力が弱い
【機会】 ・特になし	【脅威】 ・ベテランが少ない

SWOT 分析③

□アイス工房C社

【強み】 - ターゲットを問わない - コストパフォーマンスが良い - ネット販売がある	【弱み】 - 車が無いと行きづらい - 建物が小さく、座席が少ない
【機会】 - オーナーが乳製品を知り尽くしている - 気が休まる - ドライブで立ち寄りたい	【脅威】 メニューが少ない

SWOT 分析④

□地域交流館D

【強み】 ・ イベントが豊富 ・ 散歩コースの休憩所 ・ リピーターが多い ・ 風情がある ・ バリアフリー対応 ・ ターゲットが決まっている	【弱み】 ・ 働き手が少ない ・ 周辺地域への発信が悪い ・ 工芸品がパツとしない ・ 駐車場がない
【機会】 ・ 交流館には人数制限がある為PR活動ができない ・ 交通の便が悪い ・ イベントに地域の人しか参加できない ・ 施設利用にあたっては、若者には向かない	【脅威】 ・ 働き手が少ない ・ イベントに地域の人が参加できない ・ 人数制限があるのでPR活動ができない

『広報から、ブランド化へ』

- ・ 一回足を運んでもらう
- ・ いかに関心を与えられるか
- ・ いかに関心するにさせるか

プロモーション提案に関しては、当日発表します。

多摩キャンパスフェスタ「梅雨を吹き飛ばせ 先取り夏祭り」

多摩大学経営情報学部梅澤ゼミ

◎ 島田将孝 後藤孝輔 橋本祥希 (3 年)

渡辺裕和 久保田義喜 斎藤宣明 後藤勇記 (2 年)

1. 目的

本プロジェクトの第一の目的は、多摩市にある大学の学生が中心として連携し、ゼミ活動やサークル活動等日頃の活動成果を地域の住民や市民団体の皆様に広く紹介すること、第二の目的は、学生の活動団体と地域、市民団体との新しいつながりを作ることである。

2. 経緯

2012 年度に多摩大学のゼミ活動、サークル活動を紹介し、市民の皆様と連携する「多摩大学ゼミナール in 永山学園祭」を初めて開催した。このイベントは、新都市センター開発株式会社永山営業所のご支援によりグリナード永山にて永山会住民共生事業として開催したものである。

イベントでは、情報系ゼミ、語学系ゼミの制作物の実演や参加型ゲーム (10 ゼミ) を行い、市民団体 (3 団体) にもご参加いただいた。多くの地域住民の皆様、こどもたち、市民団体、行政、企業の方々にご覧いただき、私たち学生の活動を知っていただくことができた。また、私たち学生は日頃のゼミ活動、サークル活動の成果発表に対する来場者の方々の反応やご意見を直接伺うことができ、ダイレクトに評価をいただける大変貴重な機会となった。

この経験を糧に、今年度は前回のイベントで得られた成果、楽しさを近隣の大学生と一緒に味わいたい、地域の皆様と連携するきっかけを広げたいと考え、2013 年度秋から 1 年をかけて今回のイベント準備を行なった。

イベント開催に向けて 2014 年 3 月中旬から、本格的に参加団体を募りつつプロジェクトメンバー内でのミーティングや開催場所である関戸公民館の方々とのミーティングなどを行い始めた。

4 月中旬に入りパンフレットの作成、SNS での広報のためのアカウント作成、広報誌に掲載していただくためのインタビューを受けるなど広報の面に力を入れて活動を行った。

5 月は学校周辺、聖蹟桜ヶ丘・永山の各施設にポスターを貼らせて頂けないかアポイントをとるなどを行った。

6 月に入り、イベント開催の月と言う事で参加団体の方との打ち合わせ、関戸公民館の方との打ち合わせなどがとても多くなった。また会場のレイアウトや装飾、本番の流れ決めなどイベント当日に向けて最終調整を行った。

3月	12日 PJメンバー打ち合わせ 19日 PJメンバー打ち合わせ		6日 第一回参加団体全体ミーティング 10日 PJメンバー打ち合わせ 12日 第二回参加団体全体ミーティング 16日 ゼミ担当教員打ち合わせ 17日 関戸公民館職員打ち合わせ 18日 PJメンバー打ち合わせ 18日 出原先生・彩藤先生に 会場レイアウト相談
4月	4日 参加団体規約書作成 7日 関戸公民館職員打ち合わせ 16日 PJメンバー打ち合わせ 22日 関戸公民館職員打ち合わせ 24日 PJメンバー打ち合わせ 28日 PJメンバー打ち合わせ 30日 PJメンバー打ち合わせ	6月	20日 PJメンバー打ち合わせ 20日 関戸公民館職員打ち合わせ 20日 参加団体「フィールドスタディ」打ち合わせ 21日 参加団体「マアム」打ち合わせ 23日 PJメンバー打ち合わせ 24日 関戸公民館職員打ち合わせ 25日 PJメンバー打ち合わせ 25日 最終全体ミーティング 26日 PJメンバー打ち合わせ 27日 PJメンバー打ち合わせ 27日 関戸公民館にてゼミ生に 会場・当日の流れ説明
5月	14日 公民館通信「たのしいまち」インタビュー 17日 ポスターイラスト作成者にアポイント 21日 パンフレット枠組み作成開始 27日 「多摩・キャンパスフェスタ」 facebook, twitter アカウント作成 29日 関戸公民館職員打ち合わせ 30日 PJメンバー打ち合わせ 30日 学校周辺・永山・聖蹟桜ヶ丘各施設に ポスターを貼って「開けない」アポイント		28日 参加団体「MCAT」打ち合わせ 28日 市民ロビー責任者 藤井義弘様と談話 アドバイスを受け、急遽会場レイアウト変更 29日 多摩・キャンパスフェスタ開催

2014年3月～6月までの活動記録

3. イベントの概要

多摩地域の大学の学生有志により集まったゼミやサークルの活動成果の展示・発表を行う。来場者参加型形式によるブース出展団体と、パフォーマンス実演によるステージ出展団体を、聖蹟桜ヶ丘 VITA 7 階ホールに集約させたイベントとした。

主催：梅澤ゼミ多摩・キャンパスフェスタ PJ メンバー

協力：多摩市立関戸公民館

会場：聖蹟桜ヶ丘 VITA 7 階ホール(喫茶ブース)

多摩市関戸 4-72 ヴィータ・コミュニネ 7 階

電話番号 042-374-9711

開催日：2014年6月29日（日）11:00 開演、17:00 終演

出演団体：

ーブース出展団体

- ・多摩大学・彩藤ひろみホームゼミナール
3DCG を生かした、AR・デジタルデバイス展示

- ・多摩大学・出原至道ホームゼミナール
プロジェクションマッピングを用いた金魚掬い

- ・多摩大学・中村そのこホームゼミナール
学内でのゼミ活動を紹介

チラシ配りなど、当日のイベント広報を手伝ってくださった。

- ・恵泉女学園大学・フィールドスタディ（FS/CSS 室）
学内での外国文化体験を紹介

ーステージ出展団体

- ・恵泉女学園大学・チアリーディング部 PEPS

がりをつくることが出来た。これは我々がこのイベントを企画する目的であった。

「多摩市にある大学の学生が中心として連携し、ゼミ活動やサークル活動等日頃の活動成果を地域の住民や市民団体の皆様に紹介する」「学生の活動団体と地域、市民団体との新しいつながりを作ること」を達成することができたと思う。

イベント準備段階で多摩市の広報誌「たま広報」、関戸公民館の広報誌「たのしいまち」にて掲載させていただくことができたことも、「ゼミの多摩大」とその活動を地域に知ってもらうという意味で大きな成果であったと思う。



当日の記念写真



来場者用アンケート集計結果

Q1 今回のイベントはどのようにして知りましたか。

ポスターを見て 3人

たまたま通りかかって 15人

ツイッター・フェイスブックの告知を見て 1人

その他 5人（梅澤先生の告知）

Q2 また来年も遊びにきたいと思えるようなイベントでしたか。

はい 22人

いいえ 1人

その他（時間があったら）1人

Q3 私たちが大学で行っているゼミやサークル活動を今回のイベントで知ることには出来ましたか。

はい 23人

いいえ 1人

自由記入欄

- ・運営は各校持ち回りで行えば負担も平等になり、催し物をする際の勉強になると思います。
- ・ステージ参加団体がもう少し多いとさらによかった。

- ・もっと人通りの多い場所でやった方がよかったのではないかな。
- ・次に移るときの間が少し多いように感じた。
- ・子供なのか地域の大人なのか誰に見てもらいたい催しなのかよくわからなかった。
- ・OPA7階の会場は見やすくよかった。
- ・子供も楽しめる内容でよかった。
- ・（保育士の方）是非保育園にもボランティアで来てもらいたいと思いました。
- ・福祉施設で行うイベントの参考になりました。

5. 反省

参加団体の決定が遅れたことや、情報発信を十分に出来ず集客があまりなかったこと。PJメンバー以外のゼミ生に対して逐一指示を出すことが出来なかったことなどが上げられる。参加団体の決定が遅れてしまったためパンフレットやチラシ等に掲載する情報も決まらず広報活動が遅れてしまい集客が思うように出来なかった。

当日はゼミ生に指示をうまく出せなかったため、集中力が続かずだらけた行動をとってしまった生徒がいたため、もう少し休憩と仕事とメリハリがつけやすいようなシフトの組み方も出来たのではないかと感じた。

6. 苦労したこと

- ・参加団体が集まらない。
- ・参加団体の要望をふまえた会場レイアウトが難しかった。
- ・装飾品の作成（アイデアが浮かばなかった）
- ・ミーティングを行う回数が多かった。
- ・イベント当日に使う備品の個数確認に手間がかかった。
- ・メールを送る際にゼミ担当教員の梅澤先生に逐一加筆修正のお願いをした。

7. 今後について

2012年度「多摩大学ゼミナール in 永山祭」では、地域の皆様や市民団体、行政、企業に方に多摩大学のゼミ、サークル活動を広く知ってもらうことを目的とし、本年度のイベントでは、「多摩大学ゼミナール in 永山祭」の目的に加え、他の大学のサークル、ゼミも巻き込んで地域の皆様や市民団体、行政、企業に方との繋がりを広げていくことを目的にして活動をした。今後の活動については、新3年生、新2年生に任せたいと思う。

謝辞

本プロジェクトの開催にあたり、ご指導、ご協力いただいた関戸公民館館長はじめ職員の皆様、ブース出展、パフォーマンス等参加して下さったゼミ、団体の皆様、本プロジェクトに参加して頂いた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



開発途上国の社会的課題に対し、
先進国で生きる僕らには、
何ができるのだろうか。

平成26年12月13日(土)地域プロジェクト発表祭

多摩大学経営情報学部 プロジェクトゼミ

平成26年度 見山ゼミの取組み

目次

1. INTRODUCTION P.3 ～ P.4
 - 1). 見山ゼミとは
 - 2). 今年度の活動

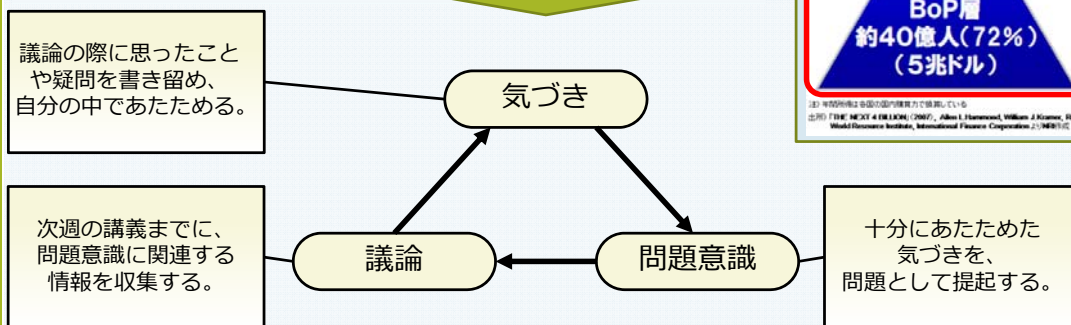
2. 各班の取組み P.5 ～ P.10
 - 1). グー班「BANGLIGHTPLAN」
 - 2). チョキ班「霧吹き～リフィル～」
 - 3). パー班「過多資源活用型ビジネスアイディアの提案」

3. まとめ ～見山ゼミを通して学んだこと～ P.11

見山ゼミとは

BOPビジネスのイロハを学び、
「問題発見力」「問題解決力」
を醸成する。

開発途上国の抱える社会的課題には、
「**答え**」がない。



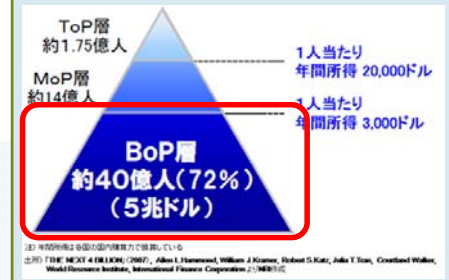
そして、「**問題解決**」へ

3

BOPビジネスとは

開発途上国に目を向け、
Base Of Pyramid層(図1)を
巻き込み、ビジネスを
ゼロから創るということ。

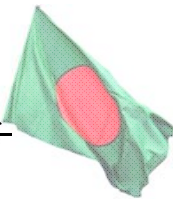
図1 世界の所得ピラミッド



今年度の活動

開発途上国

バングラデシュ



実質GDP 1,156億ドル
一人あたりGDP 960ドル
経済成長率(GDP) **6.18%**
出所: 外務省HP

今、まさに成長過程！
社会的課題も山積み！

チームごとに問題意識を持った

チーム



安全・防犯

チーム



環境

チーム



美容・衛生

社会的課題解決に向けた
ビジネスアイデアをゼロから考える。
最終的に、実現可能なビジネスプランに
落とし込むことが目標である。

応募！



主催: アイ・シー・ネット事務局

40億人のための
ビジネスアイデアコンテスト

「BANGLIGHTPLAN」

安全・防犯



発電設備が十分に整っていない**バングラデシュ**。
供給される電力が消費に追いついてない。
そのため、至る場所でほぼ毎日のように停電が起こっている。

夜になれば、**事故**や**犯罪率**が高まってしまう。
しかし、安全や安心のために、
街灯を増やすという施策では、余計に電力を消費することになり、
バングラデシュの現状に則さない。

我々の提案では、電気を使わずに、
安心・安全性を高めようとするものである。

Keyword

【反射板】

小学生のランドセルなどについている反射板などの素材を応用して、
現地の看板、街灯の周囲、人の身につけるモノ、リキシャに付着させることで、
バングラデシュの安全・安心性を高める。

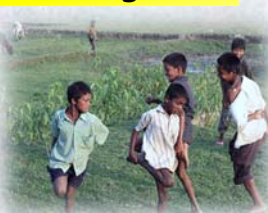
5

「霧吹き～リフィル～」

環境



Image



画像引用元: <http://blife.exblog.jp/10220063/>

外で元気よく遊ぶ子供たち。
しかし彼らは、遊んでいて**ケガ**をしても**消毒**をせずにいる。

Others

地方農村地域においても、**美容ニーズ**が高い。
熱帯モンスーン気候であり、気候柄**虫**が多く、**暑い**。etc...

そこで！



消毒液

香水

虫除け

ビジネスモデル



Keyword

【リフィル】

霧吹きの容器は、中身を替えることで使いまわしができる。
需要も多様であり、多くの層に販売できるため、消費者の家計への負担も少ない。
その都度容器を捨てることが無いため、エコロジーである。

「過多資源活用型ビジネスアイデアの提案」① 美容・衛生



JETRO 2012 年度開発輸入企画実証事業施報告書より

バングラデシュは温暖な気候風土であり、竹の成長も早く厚みのある竹が一年を通して安定して調達できる。

資源

バングラデシュの工事現場では、竹を使って足場が組まれている。

やがて、**廃材**となる。

現地で

再活用できないだろうか？



竹炭化

画像引用元: <http://happyrecipe.net/?p=16433>

Keyword

【過多資源の再活用】

開発途上国の過多資源を活用したビジネスは、現地適合性が高い。

資源を再活用することはエコであると同時に、

新たなビジネス創出(=雇用創出による自立支援)に繋がる。

7

「過多資源活用型ビジネスアイデアの提案」② 美容・衛生



「竹炭パウダー」を活用したプロダクト

美容ニーズを満たす ～ターゲット「TOP・MOP」～

例えば



効用

「体臭予防」

「毛穴の洗浄」

「肌の潤い」

画像引用元:

<http://www.masudaya.co.jp/shop/kenkou/a116.html>

衛生意識の改善

～ターゲット「BOP」～



バングラデシュでは、手を洗う習慣はあっても、石鹸を使うことは少ない。

➡ 石鹸で手を洗うと、感染症の発症率が
半分程度に減少する。



竹炭石鹸

画像引用元:

<http://rosa-tateshina.co.jp/soapandbutter.html>

竹炭石鹸というコンテンツを通じて、BOP層の日ごろの
衛生意識改善を図るとともに、**ビジネスを創出することが狙い。**

「過多資源活用型ビジネスアイディアの提案」③ 美容・衛生

彼らは、

せっけんを使って手を洗ったほうが良いという認識はあっても、
せっけんで手を洗ったほうがいい理由を知らない。

売り方のカギ！

雇用創出



消費者教育



仕組み化！

現在、議論中！

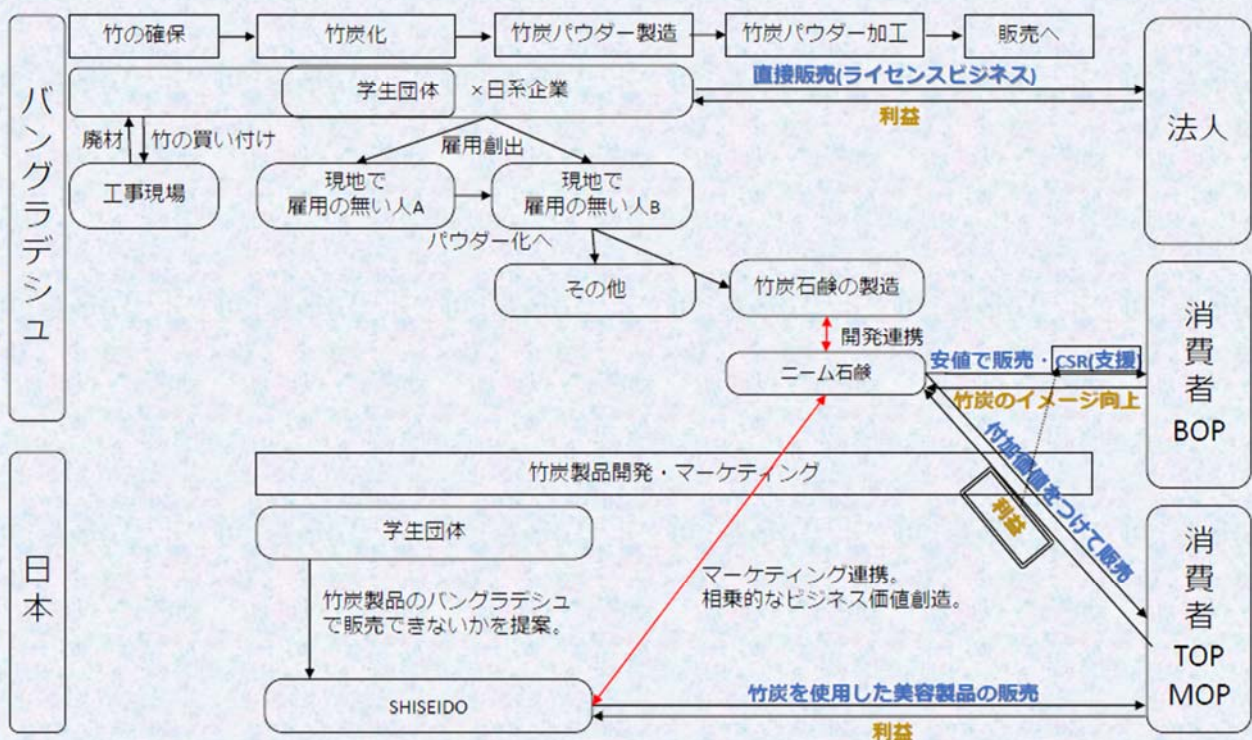
既存の企業の事例を参考に、ビジネスの仕組み化に向けて、
このビジネスアイディアの「**How**」を検討していくことを、
今後の課題として取り組んでいきます。

※スライド構成上、実現にあたり想定されるボトルネックなど、これからの課題に関する内容は割愛します。

9

ビジネスモデル図 Ver.1,0

美容・衛生 



※配布資料にのみ掲載

10

まとめ～ゼミ活動を通じて学んだこと～

K君

途上国の現状が、僕らの創造していたものとは違って、
思っていたより明るいものだった。
問題発見と、解決。それぞれの難しさを感じた。

I君

与えられた課題に取り組むことはどこのゼミにおいても当然のことと思いますが、見山ゼミでは、与えられた課題をこなしているだけではダメで、自発的に考えて、基本的には学生のチカラで(先生は助言とサポート)課題解決に向かっていかなければならず、苦労は多々ありましたが、0からビジネスアイデアを考えるのは、いい勉強になりました。

毎週金曜日4限 121教室にて活動中！

※平成26年度の活動日です。

11

参考文献

- nikkeiBP ASIABIZONLINE 第1回アジアにおけるBoPビジネスとその可能性
掲載日：2013年1月25日
URL : <http://www.nikkeibp.co.jp/>
- 外務省HP バングラデシュ人民共和国基礎データ
URL : <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bangladesh/data.html#section1>



多摩大学のマスコットキャラクターをつくろうプロジェクト

多摩大学経営情報学部梅澤ゼミ 3 年

◎芹澤誠 阿部智大 小島拓弥

1. 目的・経緯

現在、多摩大学には校章がありますがマスコットキャラクターはありません。そこで私たちは、2014 年度が多摩大学開学 25 周年ということであり多摩大学のマスコットキャラクターを作りたいと考えました。

マスコットキャラクターは、多摩大学のさまざまなグッズを飾り、着ぐるみは新入生や留学生の歓迎会、雲雀祭など学校行事、体育会フットサル部の応援、入試広報活動等の雰囲気をも温かく盛り上げます。

また、地域の皆様にも愛され、多摩地域の祭りやイベントへの参加要請が来るような存在にしたいと考えています。マスコットキャラクターが地域で活躍することで多摩大学が広く知れわたり、地域の皆様に認知されることが目的です。

2. 今年度の活動内容

- (1) キャラクター絞りこみのためのアンケート
- (2) キャラクターの決定
- (3) キャラクターの具現化

(1) キャラクターの絞りこみのためのアンケート

キャラクターを絞り込むため、多摩大学生を対象に集まった 13 作品の中から、「多摩大学にふさわしいマスコットキャラクターはどんなものが良いか」について投票していた

だき、キャラクター選考のためのアンケートを行いました。

選考基準については以下の条件です。

- ① 多摩大学に愛着やアピールしたい良い面を表現し、親しみやすく記憶に残るもの。
- ② 大学の構成員が愛着を持つだけでなく、地域の方にも親しみを持っていただける多摩大学の顔となるもの。
- ③ HP 等の広報媒体や多摩大学グッズに利用できる拡張性の高いもの。



※今回のアンケートで学生に投票いただいた 13 作品のマスコットキャラクター。

◆第1アンケート結果

有効投票数 385 票。1 位である「ほーくん」が 138 票（36%）。2 位の「たまダルマ」が 39 票（11%）となりました。

1 位のほーくんが総投票数の過半数を超えなかったため、再度アンケートを行うことにいたしました。

（2）キャラクターの決定

◆第2アンケート結果

第1アンケートで上位4作品にキャラクターを絞りこみ、再度アンケートを行いました。

票数	5/12 ビジネス入門A.B	5/13 余暇マネジメント	5/13 就職支援講座	5/14 就職支援講座	合計
1ほーくん	113	38	24	15	190
2たま頭巾ちゃん	47	18	14	6	85
3タマ夫	52	13	11	5	81
4たまダルマ	44	10	7	5	66
なし	13	0	1	2	16
無効票	12	2	0	2	16
計	281	81	57	35	454

以上の結果「ほーくん」が 190 票となり、最終的に 1 位となりました。（表参照）。

(3) キャラクターの具現化

① 着ぐるみ製作

② 等身大パネルの製作

① 着ぐるみ製作

◆着ぐるみ製作の狙い

- ・着ぐるみは遠くからでも存在感を感じさせ、人を和ませる効果があるということ。
- ・着ぐるみは学内や地域の人々のモチベーションを奮い立たせ、マスコットとしてより愛される存在になることができる。

◆製作の断念とその理由

- ・着ぐるみ製作に必要な資金を集めるために募金活動を考えていたが、行動できなかった。
- ・プロジェクトメンバー間で着ぐるみの作業工程を共有できていなかったこと。そのため、キャラクターの足を、本来ホームベースという硬い素材で作るべきところを、誤ってウレタンという素材で作ってしまった。
- ・一番大きな問題は、メンバーの行動が伴わず、大幅なスケジュールの遅延のため、先々の目処が立たなくなってしまったことです。

② 等身大パネルの製作

◆等身大パネルの狙い

- ・簡易的な方法でありながらイベントを華やかに演出できる手段である。
- ・製作期間が短い。



※左：等身大のモデル，右：等身大パネル

着ぐるみ製作は中止とし、等身大のパネルを業者に依頼することで見える化を図りました。

3. 今年度の反省

- ・プロジェクトに関係することは、メンバー間でしっかり共有すること。
- ・作業スケジュールを組むときは、具体的な実行計画をしっかり立てること。
- ・メンバー間もしくは先生との打ち合わせの機会を増やすこと。
- ・プロジェクトの活動は常に全員参加を旨とすること。
- ・報告・連絡・相談を怠ることなく行うこと。

4. 謝辞

作品を応募してくださった多摩大学経営情報学部の学生、職員の皆様、多摩大学付属聖ヶ丘高等学校の皆様、アンケートにご協力していただいた学生の皆様、着ぐるみの製作の件で大変お世話になりました「ちょこグループ」の皆様、そして今回のマスコットキャラクターの製作の件に関わった全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

多摩大学 地域活性化マネジメントセンター

〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1

TEL:042-337-1111

FAX:042-337-7100